

310.4  
A195h



\* 0003928000 \*

0003928-000

310.4-A195h

北進図南

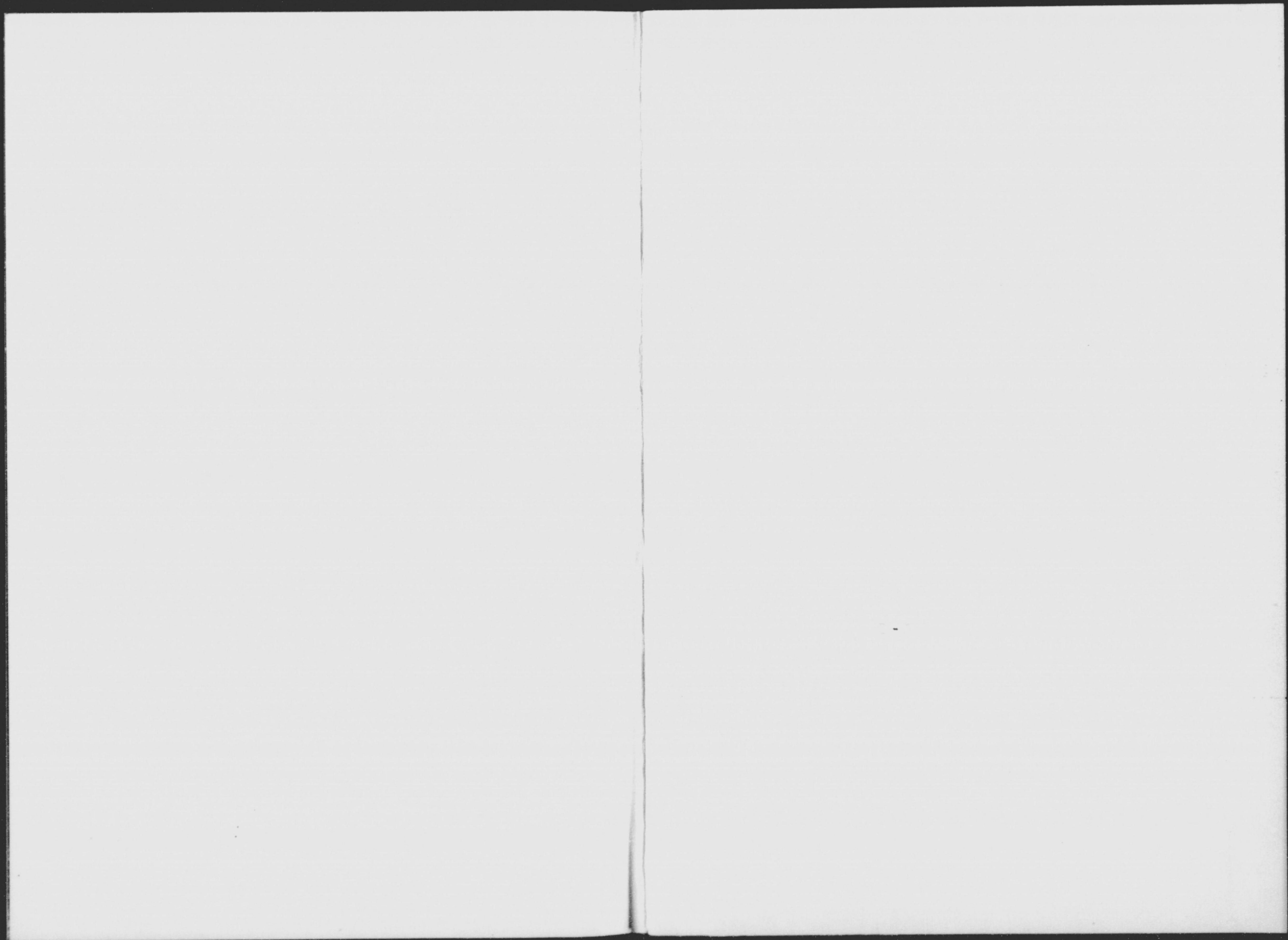
安達謙蔵・著

春潮社

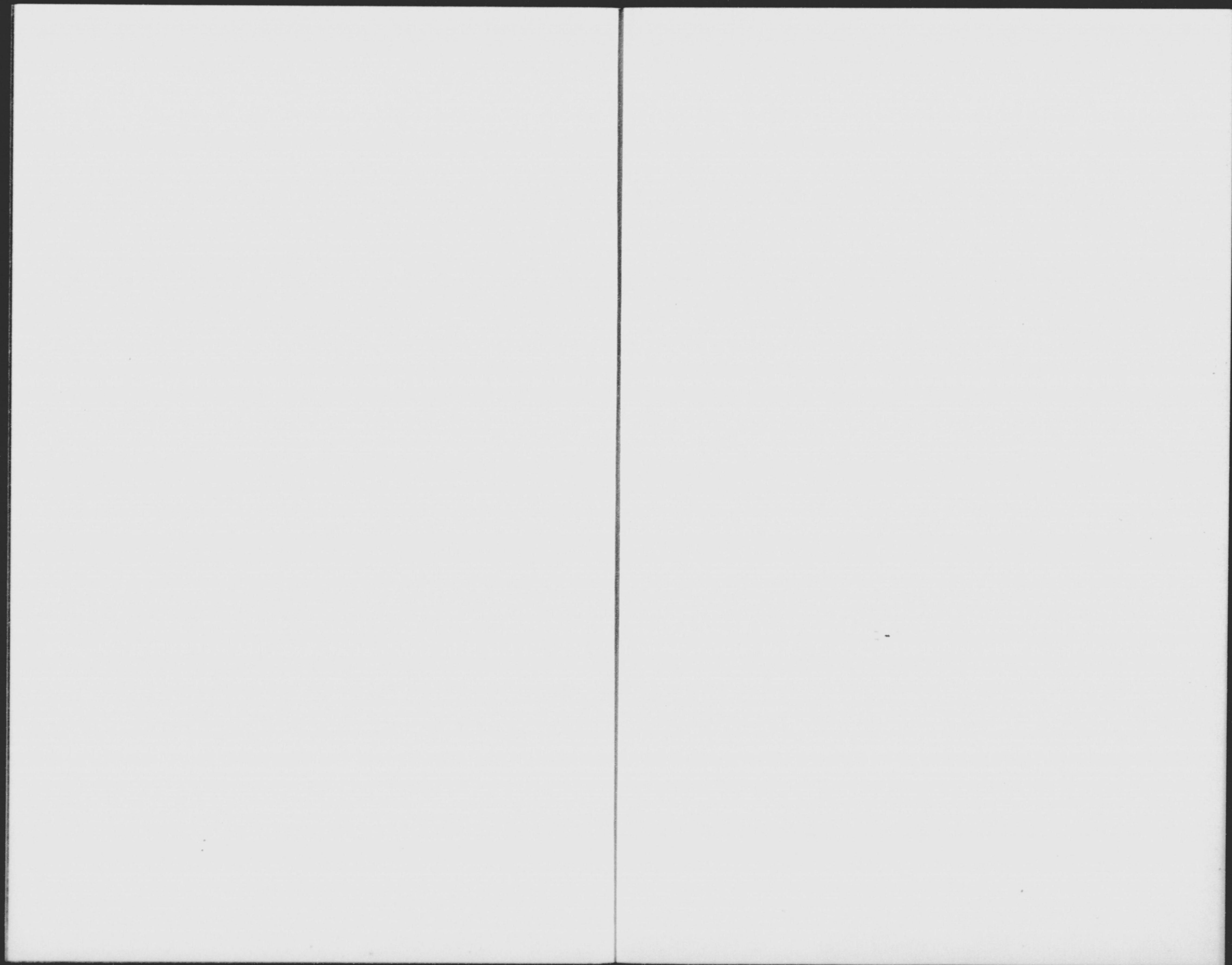
1940

ABA











安達謙藏著





工ト2493

# 水邊園南

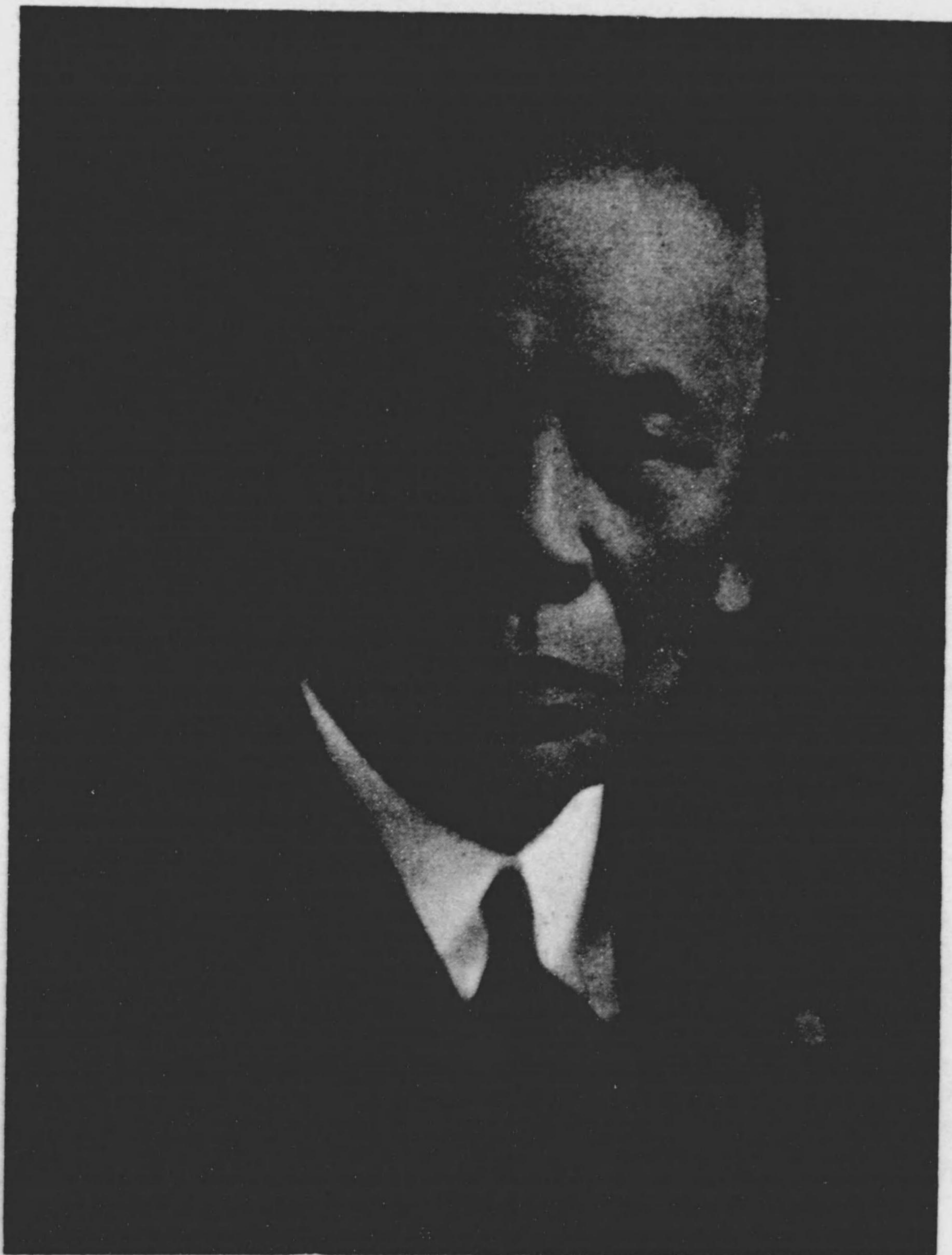
安達謙藏著





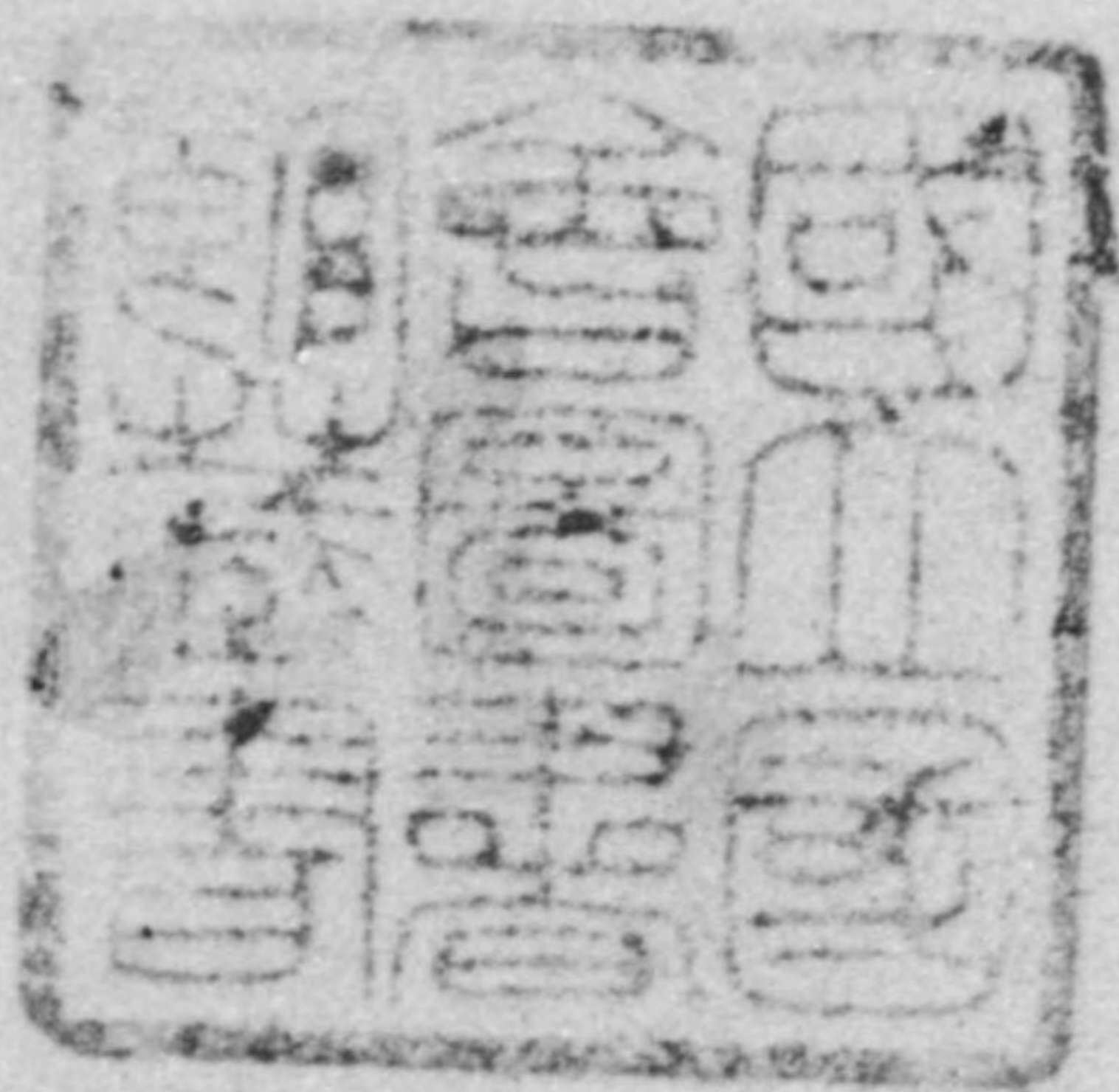
小蓬園南





安達謙藏先生

310.4  
A195R



31158





安達謙藏先生

310.4  
A195R



31158



阿又端宵牧群羊  
阿才衝尖拓僻荒  
小逢國南天所命  
誓將忠勇報君王

七十七歲 漢城



(志言弟兄) 書·作生先達安



## 序

支那事變勃發後、數回ラヂオにて放送したる時局に關する講演と、修養講話と、其他二三の世間に公表したる意見とを蒐集して小冊子を刊行せんととの議あり、私之に同意を表して舊稿を通讀せしに、僅々四年前と今日とを比較して、世論の進歩變遷の甚だしきに喫驚するものあります。例せば四年前の私の放送が數秒間スキッチを切られた位の立言は、今は外務の當局者でも、アナウンサー諸君でも、平氣に公言することになりしことは兎も角結構な事であります。

抑も外交上の所謂懸け引き、虚々實々、探ぐり足、一分刻ざみ(局部的解決)の態度は、舊式外交にあらざれば臆病外交であります。



現下の世界の變局に處して、列強との國交は公明正大、肝膽相許して進むか、將た進まざるか、を先づ決定して、其後に局部の問題に及ぶべきを要諦と思ひます。而して若しも、緊迫せる政局の千變萬化の場合に逢着しては、複雑を怪奇とせずして、其複雑に臨機善處することが緊要であります。

今や歐洲戰爭の結果は有史以來未曾有の變化を全地球の上に與へんとし、私が二十年後に到來するならんと豫期したる英國の衰亡が眼前に展開し、同國の救命的躁急なるアガキは、米國依存の一點張りに集中せられたるもの、如く、随つて米國のアワテと、恫喝と、チャンボンしたる態度となりて、彼の尨大なる國防費の擴張、老朽驅逐艦と航空基地島嶼との交換の如き、皆其の現れであります。依

つて今後太平洋に於ける諸問題も、總て英米合作のものを對手として考慮せなければなりません。

我國は此の世界變局を乗り切つて、支那問題の解決と、大東亞共榮圈の建設とを完遂せんとするものであります。此の間に私の意見の一斑が参考とせらるゝ所ありますれば洵に光榮と存じます。

若し夫れ處世訓即ち修養講演等に關する意見に至りては、之を讀みて一人の感奮興起する人ありたらば私の大いに満足する所であります。

昭和十五年九月十五日於八聖殿

漢城 安 達 謙 藏



目次

時局と所感

- 一、帝國發展途上の一階段……………一
- 二、事變を廻る第三國……………七
- 三、徵兵令の改正……………一四
- 四、捨身の戦法……………二

時局所感と海洋立國に就いて

- 一、放送事業の回顧……………二六
- 二、時局所感……………二九
- 三、海洋進出は大和民族の使命……………三三
- 四、海洋調査の必要……………三四
- 五、鯨は肴の第一位……………三七
- 六、一擧三得の重要問題……………三九

目

次

一



七、水産業は海外發展の基礎 ..... 四一

對支根本方針に就いて ..... 四五

事變處理の要諦 ..... 五一

一、英國の我國に對する政治的感情の奥底 ..... 五三

二、東亞新秩序の建設は舊秩序の破壊 ..... 五五

三、先づ英國を射よ ..... 五七

四、リースロスでもサツスンでも ..... 五九

五、最惡の最惡の場合 ..... 六三

六、捨身の中央突破 ..... 六三

七、世界の思想界に向つて宣戰布告 ..... 六六

八、正を蹈んで怖れず ..... 六六

國際情勢と日本の地位 ..... 七一

一、多情多感勇敢優美なる國民性 ..... 七三

二、通商條約廢棄は何を意味するか ..... 七四

三、英國に背負投を食はせた蘇聯 ..... 七五

四、防共協定強化の遷延 ..... 七六

五、惡辣陰險老獪なる英國 ..... 七七

六、國際外交の深刻味 ..... 七九

七、長期か短期か歐洲戰の前途 ..... 八〇

八、加藤高明伯の英國觀 ..... 八一

九、英國の決心は如何 ..... 八三

一〇、獨逸の覺悟は如何 ..... 八四

一一、孤立獨行は大禁物 ..... 八五

一二、第三國の援蔣を斷ち切れ ..... 八六

一三、事變解決の一新面目 ..... 八八

一四、新政權樹立後の急務 ..... 八九

一五、行政機構の病根 ..... 九一

一六、袋の鼠となる勿れ ..... 九四

一七、大膽果敢に行動せよ ..... 九六

紀元二千六百年所感 ..... 九九



- 一、我が民族發展と帝國の遠き將來を想ふ……………100
- 二、海洋立國北進南進……………101
- 三、我國眞の姿を紹介……………104
- 四、九ヶ國條約廢棄通告……………106
- 五、支那交通機關の整備……………108
- 六、機に臨む最後の斷……………110
- 七、結語……………113

國際政局に對する所感……………115

- 一、歐洲情勢認識の是正……………116
- 二、獨逸の對英策戰は勝敗の分岐點……………119
- 三、米國の露骨なる反日態度……………120
- 四、日米親善論の種々相……………123
- 五、米國に我國の最後決心を示せ……………124
- 六、蘭印資源は日本に對する大自然の賦與……………125
- 七、獨逸に長期戰の覺悟あり……………129

- 八、獨逸は英國を生殺しにせず……………130
- 九、方向轉換の要……………133
- 一〇、眞の舉國一致の實現……………133

國民同盟解散の宣言……………137

無差別爆撃を執行すべし……………149

保健國策に就いて……………153

- 一、一國の興亡は國民の健康にあり……………154
- 二、世界政局に於ける日本の位置……………156
- 三、我が國體の基礎たる家族制度……………160
- 四、行政機構改革の批判……………164
- 五、國辱病癩問題の解決……………168
- 六、亡國病結核の豫防撲滅……………173
- 七、恐るべき花柳病の害毒……………176
- 八、慎重考究すべきスポーツ問題……………180



九、財源の捻出策として富籤を發行せよ……………一八六

一〇、躍進日本に確立すべし保健國策……………一九一

儀式典禮と詩歌の吟詠……………一九七

吟詠獎勵方針の要項……………二〇一

處世訓……………二〇三

第一講……………二〇四

一、社會道德衰頹の原因……………二〇四

二、個人と人は……………二〇五

三、大我と小我……………二〇七

四、獨りを慎む修養……………二〇八

五、人生行路に悲觀は禁物……………二一〇

六、困つたと思はず心機一轉せよ……………二一一

七、不平は立身出世に大禁物……………二二三

八、人間處世の秘訣……………二二四

九、人間乃木さん……………二二六

一〇、乃木將軍の除夜の詩……………二二七

一一、那須野原生活と將軍の修養……………二二九

一二、千古の龜鑑……………二三〇

第二講……………二三二

一、男子と性の問題……………二三二

二、女子とお守刀……………二三三

三、性慾抑壓の手段方法……………二三四

四、青年官吏の門出に贖けの詞……………二三六

五、家族制度の美風……………二三八

六、家庭の不和と夫妻の修養……………二三九

七、男子の勇猛心……………二三二

八、婦人の虛榮心……………二三三

九、人間は何處迄も向上す……………二三三

一〇、怖るべきは綱紀の頹廢……………二三五

一一、國民品性の陶冶を要望す……………二三六



飛躍日本の青年に告ぐ……………三七

一、私は如何なる人間であるか……………三六

二、貧窮時代と父母の感化……………三四〇

三、朝鮮事件と私……………三四四

四、胸に迫る思親の情……………三四六

五、畢生の快心事……………三四七

六、金山經營の失敗……………三四九

七、金錢に就いての私の信念……………三五〇

八、日本精神と孝道……………三五三

九、石塔に蒲團かけられず……………三五四

一〇、我に天恵豊かなり……………三五六

一一、義は君臣情は父子……………三五八

一二、失業苦と家族制度……………三五九

一三、大和民族の使命と特殊性……………三六〇

目次(終)

時局と所感

本篇は、昭和十二年十月十一日午後七時半より三十分間に亘り、東京中央放送局より全国に中継放送ありたる講演の内容にして、支那事變勃發當初の警世的言々句々は、全國民の異常の共鳴を博したものである。(編者識す)



## 一、帝國發展途上の一階段

私は茲に今日の時局に際し、平生考へて居る所の意見の一斑を述べまして、皆さんの御参考に供しようと思ひます。

回顧致しますると三十有餘年前から、私は我日本帝國の國是は、北進又南進でなければならぬ。即ち北にも進み又南にも進むことが、我民族の使命であると主張して居ります。故に北は亞細亞大陸の白雪皚々たる所に、銃劍を肩にして國境を守る哨兵もあれば、又牧場に羊を逐ふ者もありますと同時に、南は炎熱焼くが如き所に椰子の樹の木蔭に、鋤や鍬などを枕にして晝寢を爲しつつある同胞もあらねばなりません。

私は又海洋立國、即ち海によりて國を立つると云ふ政策を取らねばならぬと

云ふ意見が多年の宿論でありまして、海洋立國の政策とは、世界的通商貿易の網を張り、又世界的海運即ち航路の網を張る事と、水産業の發達奨励とであります。

海洋立國論の基礎としましては、陸地の田や畑の一坪の價も、太平洋の水の一坪の價も同一であると云ふ見地に立つて、世界地圖を擴ろげ、コンバスを執りて我帝國勢力の及ぶ所に圓線を劃して見ますると、北はアリユシャン群島方面より太平洋は勿論、支那海は申す迄もなく、マーシャル群島、カロリン群島に至る海上皆我が領水であり、即ち勢力範圍でありまして、眞に一大帝國が建設せらるゝのであります。

以上約言致しましたる平素の宿論を基礎としまして、今回勃發したる支那事變を、靜に永い目で眺めて見ますると、此の事變は我民族の發展上、早かれ遅



かれ一度は必らず到来すべき運命でありまして、此の事變は帝國發展の途上に於ける階段の一段に過ぎざるものであります。

今回の事變が早く片付くか、或は永引くかはまだ早計に斷言は出来ませんが、よしんば早く片付くとしても、私の永い目で眺めて居る所では、今後五年か十年後には又今回と同様の事變が何處かに起るものと思ひます。(其時は支那とではありますまい。)而して其後又五年か十年かの後には又々同様の事變が起りまして、今後二大事變即ち二階段を経まして、初めて日本帝國、大和民族が世界第一位の民族となれる時が來ることと考へて居ります。尤も今回事變の終局の様次第では、今後の二階段は一階段で済むかも知れません。

それで現在に處して我々は、我民族發展の道程の第一階段を踏んで居りますから、此階段を固く踏み占めて、誤らざる様に深き注意を要する次第であります。

我帝國の海外發展の歴史を辿りて見ますと、其發展の初めは何時でも頗る消極的で人道主義の上から已むを得ず行動したものであります。第一日清戦争に於て、第二日露戦争に於て、第三滿洲事變に於て皆消極的で、日清戦争は支那に李鴻章、之を輔くるに袁世凱などありて、朝鮮を併呑し朝鮮人民を塗炭の苦に陥れんとしましたから、我國は敢然起つて支那を膺懲したのであります。又日露戦争は露國帝政の全盛時代で、彼は滿洲を吞み進んで朝鮮を占領せんとしましたから、我國は已むを得ず征露の義軍を起したのであります。

又近くは滿洲事變も、張作霖や張學良などが我國の權益を蹂躪して、排日、侮日の行爲を敢てするから、斷然義憤を發して、遂に其結果は滿洲の獨立となつたものであります。今回の事變でも我國は飽迄局地解決、戦局不擴大の方針



にてありしに拘らず、支那側が暴戻なる行動を爲すために、遂に已むを得ず、大決心を爲して今日の状態となつたものでありまして、從來數回の戦争、皆已むに已まれぬ正義の觀念が迸りて義軍と成つたのであります。之れが我皇軍の強き所以で正義の爲めに勇敢に働いたる結果は、皆我國の東洋に於ける勢力の發展となりて居るものであります。

夫で今回事變の發端に當りては、日支共存共榮と共產主義排斥の外、何等權利々益の獲得の希望などは毫も有して居りませぬ。去り乍ら事局終結の場合は自然の大勢上我國勢力の大々的發展と成り行くものと、今より想像せらるゝのであります。

乃で茲に私は第一に、今回の事變を廻る第三國の状況の一斑を、第二に青年の責任觀念養成と、徴兵令改正に關する私多年の意見を陳べ、第三に今日の時

局をどう見て居るかと云ふ事を、簡單にお話ししようと思ひます。

## 二、事變を廻る第三國

先づ第一に我國と從來永い間、親善關係を有する英國に就て冷靜に批評しますならば、今を距る卅六七年前、即ち日露戦争前には、露國帝政の全盛時代でありまして、其勢力隆々として東亞を壓し、方に印度方面にも及ばんとする傾向がありました頃には、英國は何とかして此勢力を押へんと考慮しまして、遂に我國と固き握手をなし、即ち日英同盟を約して、露國と我國との戦争を容易ならしめ、而して露國の大勢力を失墜せしめたものであります。

然るに其後我國が大に勃興して産業貿易の顯著なる發達を見るに至りますと、英國は日英同盟を破棄するに至つたのであります。



此間の利害の打算に深刻なる英國政府の態度は、其國民性を現して居るものとは思はれますが、國際政局の掛引に冷靜氷の如き態度は、到底多感多情なる大和民族の我々共の想像し能はぬ所であることは國交上大に考慮を要します。乃で滿洲問題が勃發して、我帝國が亞細亞大陸に牢固たる基礎を確立せんとする形勢となりまするや、英國は極力日本の發展を抑えねばならぬと焦慮し、アセリまして、オッタワ會議を初め印度、和蘭等の關稅改正會議の如き、皆我國に對する經濟的挑戰であることは世界の皆認むる所であります。所が我國は高關稅の障壁位では中々閉口致しませぬ。而して益々産業貿易は發展するのみならず、多年英國の誇りとして居りました綿糸の如き纖維工業も、我國が之を凌駕するの狀勢となりました。

殊に約百年前より扶植したる支那の權益も、日本の爲に次第に侵入せらるゝ

形勢でありますから、之れではタマラヌ、何とかせなければならぬとは、英國朝野の數年前來の輿論と申しても宜しいのであります。其處でイーデン外相は蘇聯と接近政略を取り始めました。當時ソビエトは世界各國から嫌はれ者であつたに不拘、殊更握手したのは全く日本に對する政略に、蘇聯を利用せんとするの利害の打算から爲したものであります。イーデンが一昨年三月態々蘇聯に行つてスターリンに面談したるが如き、或は又浦鹽に於ける東洋艦隊を再建する爲、其資金を佛國銀行を通じて貸し與えたるが如き、其著しき現はれであると思はれます。

又ソビエトは其世界赤化を實行するには、歐羅巴の文化の程度高き國家を共產化する事は頗る困難にして容易でない。依て先づ文明の程度低き支那方面より着手するが早道であるとの方針を定め、數年前來共產軍を使喚して蔣介石



の中央軍と衝突を重ねて居りましたが、其後英國が對日政策の爲め秋波を送り頻りに手を伸ばして握手を求め、或は又西安事件突發して蔣介石監禁せらるるや、蔣介石も宋美齡も共產軍に丸められて仕舞ひ、茲に支那の赤化運動に拍車を掛け、共產黨の巨頭等が南京政府の要人と肩を並べて幹部會に列席するに至りて、遂に不可侵條約を締結しまして、日支の正面衝突を促進したる事は申す迄もありません。

其他フランスは英國の思ふ儘になるとして、米國は初めの間は最も公平の態度を持って動くかと思へて居りましたが、支那の宣傳に國內の輿論が誘惑せられたると、英國のアラユル勸誘と相俟つて、遂に當局を動かし大統領や國務長官の聲明となつたものと見えます。此上米國が如何なる行動を爲すか我國としては靜に眺め置くの要があります。又國際聯盟に委員會の決議などがあります

が、此決議の如きは所謂犬の遠吠であります。

夫から支那も英國も蘇聯も我國を見誤り見縊りて居りました事が戦端を惹き起した一原因であります。それは我國は財政が非常に行詰りて居る。遠からず破綻するから手も足も出されぬ様になる。又軍閥、官僚、政黨、労働者等の軋轢甚だしく、民心は離反して統一せず、即ち舉國一致は出来ないと見縊りて居りました。元來我國が日露戦争以來、三十有餘年の間に非常に發達して、其富の力は、優に戦費の百億や三百億や五百億位は堪え得る力あると云ふ事を知らないであります。又我々大和民族は平生無事の時には多少軋轢もあり、議論も致しますけれども、一度國難に逢着すれば、何も云はずにグット一致結束すると云ふ、我民族特有の國民性を知らなかつた事が、我國の實力を見誤つた大原因であります。



然るに一度戦争が開かれました所、我國は英米露佛等の想像に反して、案外經濟界は平穩にして、財政は少しも行詰る様子なく、又國民は直に舉國一致結束して、士氣頗る旺盛、而して北支方面に於ては北京天津の樞要都市は兩三日にして安定し、山西方面も平漢線も津浦線も連戦連勝し、北支方面は已に治安維持の自治工作が各地に行はれつゝある光景を呈し、上海方面に於ては一種の要塞に據りて必死防禦に力める支那中央軍の精銳を撃破して、最早數日ならずして完全に上海を我軍の手に納めんとし、又空軍の大威力を以て、南京、廣東を初め、北支、中南支、各樞要都市の軍事的施設を破壊し、又二千八百餘哩の沿岸は海軍にて之を封鎖しつゝあることは、世界列強の目を驚かし居ると思はれます。就中英國政府は確かに豫想に反したる結果となりて、目下裏面に於ては、頻りに窮餘の善後策を講究中にはあらざるかと思はれます。

殊に元來支那全土に對する既得の權益、就中中支南支に植付けたる權益を、極力擁護せねばならぬ英國と、支那全土を赤化するを唯一の目的として活動する蘇聯とは、全然利害相反するに拘らず、其利害を無視して之と接近提携して支那問題を解決せんとする様でありますが、今後英國は果して如何なる行動を爲すかは大に注意を要します。

乃で我國は正を蹈んで懼れずと云ふ堅き信念を以て益々皇軍の威力を發揮し支那國民が、自覺々醒して真に日支親善、共存共榮が東洋平和の爲めであると云ふ事を覺る迄、軍事行動は勿論、外交工作もあらゆる手段を講せねばなりません。去る九月廿五日頃の伯林よりの新聞電報によりますと、伊太利のムツソリーニは獨逸を訪問し、ヒットラーと會見の時、ソビエートの日支事變に對する積極的行動に付て話合を爲したとの記事がありました。私は新聞電報を盡く



信する者ではありませんが、常識を以て考へまして、有りそうな事でありま  
す。而して我國に同情しての話だとの事ではありますが、私は獨、伊の二大巨頭  
の話は新聞紙上好感を以て讀む丈でありまして、此際斷じて他力を頼んではな  
りません。又第三國が立つとか起たぬとかに顧慮せず、我國は決して敵の來ら  
ざるを恃まず、如何なる場合でも不覺を取らぬ丈の決心と用意が必要でありま  
す。私は滿洲及其他の各方面を眺めまして、諸般の準備充分にして綽々として  
餘裕ありと認めますから、此點は勇敢無比の陸海空の三軍の將兵諸士に信頼  
して居るものであります。

### 三、徵兵令の改正

第二の問題は青年の責任感念養成と徵兵令改正と云ふ事ではありますが、元來

現在の徵兵適齡は滿二十歳であるのを、滿十八歳に繰り上げると云ふ事であり  
ます。此の意見は私多年の宿論でありまして、今日の時局に直接關係あるもの  
ではありません。唯今日の時局に際し世間一般が軍事に注意を惹いて居らるゝ  
時でありますから、汎く意見を公表して輿論の賛同を仰がんとする者でありま  
す。

元來私の滿十八歳を徵兵適齡としたいと云ふ根本觀念は、今日の様に世界的  
民族競争の熾烈となりし以上は、滿二十歳を丁年とする民法の規定が餘りに晩  
きに失する、之を十八歳に改正すべしと云ふに在ります。而して學校と兵營と  
家庭との聯絡、即ち學校教育と軍隊教育と家庭生活とを密接ならしめ、青年が  
十八九歳になりても單純にして子供々々して居ることが宜しくない。此青年に  
責任感を起さしめ、可成早くから國家社會に盡さしめたいと云ふ事が目的であ



ります。

今其意見の概要を簡単に申し上げますと、一般の小學校卒業者が中學校乃至中學程度の學校に入り又多數の人は青年學校に入り其學校を一通り終りまして、現在では徴兵適齡迄には一年か二年位餘裕があるのであります。此の餘裕がよくない。何となれば青年の腦底には、自分は遠からず兵隊に行かねばならぬといふ氣掛りがありました、夫で仕事をしてても所謂身に付かない。働いても一心不亂に勵むと云ふ氣持にならないのであります。其處で徴兵適齡を十八歳に繰り上げますと、學校生活から直ちに兵營、即ち軍隊生活に入り、而して學校生活と軍隊生活の間に、ブラ／＼生活を爲す時間が無くなり、即ち兵役の義務を果し了りて、而して家庭人となりて家業に一心不亂に勉強することにしたら大いに宜しからうと考へて居ります。

年齢繰り上げによりて最も有效なる事は、青年の品行が著しく改まる事であります。現在の通り學校を出て、から兵役に行く迄に時間がある。此時間が青年の性的に最も變化ある時代に相當し、敏感にして他の誘惑に最も刺戟せられ易き時であります、茲に徴兵適齡を改正して、學校生活から直に兵營生活に移り行きて、其間に誘惑に罹る時間を無くする事が最も緊要の事であります。

却説こゝ迄話を進めますと、次ぎに起る問題は、兵隊として十八歳では餘りに若か過ぎはせぬか、軍隊教育上如何なる影響あるか、實戦に臨んで成績如何と云ふ事が最後の問題であります。私は此意見を三年前に公表するに當りて、參考として先づ第一に陸軍で始められた少年航空兵養成の模様を調べた事がありますが、其成績は頗る良好であるのみならず、そこに一つの面白き現象は操縦よりも機械科の方が少年の成績優秀であるとのことであります。少年の柔か



き手の方が堅くなつた手よりも機械扱ひに優秀であるとの證言は、即ち學校を出た其儘で直に教練を受けた方が好結果であると斷言せらるゝかと思はれます。

夫れから實際の戦争となつたら青年は劣りはせぬだらうかと疑問を起す人もありますが、私一言に然らずと之を否定する者であります。

古來の歴史を見ると、若い人の戦場の働きと云ふものは、大いに輝いて居るのであります。

私壯年の頃武道の大家の古老に、一番鎗の話聞いたことがあるが、其談話によれば昔元龜天正の頃から、何誰某が一番鎗と云ふことが歴史に残りて居るが大突撃の場合に一番鎗がどうして判るか云ふと、敵味方が相對立して前面に突貫する場合は所謂勇者一人進まず、怯者一人遅れずと申しますが、一番元

氣な勇敢なる者が中央に居れば、中央が圓錐形となる。右翼に居れば右翼、左に居れば左が圓錐形となつて、敵軍に衝突する事に極つて居る。それだから先頭は唯だ一人だ。依て其一人は誰某だと云ふことが判る。即ち一番鎗の功名が判るのはそれだ。然るに其の一番鎗を突いて武勳を立てた人を調べて見ると大概二十歳未満の青年です。この一番鎗の功名話でも勇敢な事は二十未満の十八九歳の青年であると云ふ事が判るのです。

皆様も御承知の通り、頼山陽の有名な詩があります。即ち筑後川を下るの詩で、菊池武光が小貳の太軍を敗り大捷を博したる史實を讚嘆したる長篇であります。その武光の大勝利を獲た原因を探究して見ますと、武光の長男武政と云ふ者が居ります。此の武政が決死隊三百人を率いて夜襲を試み、敵軍の背後に出で、大突撃をしましたから、敵軍は大に狼狽し潰亂して、あの大勝利



を博しました。その殊勳者の武政は年幾つかと云ふと其時僅かに十七歳であります。

其他元龜天正以來の歴史を吟味致しますると、二十歳未満の青年の武勳は幾つも見出さるゝのであります。それで少し皮肉の言かも知れませんが、十七八歳の青年はまだく戀愛關係などが無い。單純無垢な人がいざと云ふ場合は、常人の出し得ない勇氣を出すものと云ふ事を、生理的に論ずる人もあります。私はそれは確かに一部の眞理ではなからうかと考へて居る次第であります。

之を要しまするに、世界的民族競争の盛んなる今日に當り青年に一日も速に責任感念を持たしめ、平常時には軍隊訓練を受けて國家に對する第一義務を了らしめ、然る後一家の業務に専心従事する事とせば、青年の氣風は必ず質實剛

健となります。而して一朝有事の時には、常備軍の大部分は妻もなく兒もなく何等家庭の係累なく全く一個の不羈獨立の青年男子なる時は、其活潑勇敢なる事は、我々の想像以上だらうと思ひます。私は男子十八歳になれば必ず各家庭にて成年式を行ひ、青年に責任感念を旺盛ならしむる案を有して居りまするけれど、茲には省略して置きます。

#### 四、捨身の戦法

最後に私は今日の時局をどう見て居るかと思ふ事を一言して置き度いと思ひます。日支間の戦闘が我軍の連戦連勝であるといふことは、日本人として一人も掛念する者は居りませんが、唯だ何時片付くだらうか、どうなるだらうか、といふ掛念は、目下誰も頭に在るかと思はれますから、私の見込を一言して



見ようと思ひます。私の見込は上海戦も一段落を告げて、遠からず上海全部は完全に我軍の手に收められるものと思はれ、又北支の戦線は山西方面も、平漢線も、津浦線も幾日かの中に目的の地點に到着するに相違ありませんから、其時は上海も北支一帯も民心安定して、所謂明朗なる新天地となると思はれます。

斯くなりてもまだ、蔣介石が没落せざる以上は、戦争は續きますけれ共、我皇軍の平定したる地方丈は安定して、避難せる支那人は皆安堵して我家へ歸りて、アラユル商業取引も始まり、購買力は非常に高まるものと思はれます。而して結局蔣介石没落して新政権出来るとなれば、其新政権にて四百洲の統一出来るや否や、或は北支は勿論、中支、南支も分立するに非ずやとも思はれます。

處が英國及猶太財閥等は、極力蔣介石を擁護しますから、容易に没落せぬものと見て置くが間違ないのであります。要するに我方は北支及上海を安定し明朗化して、毅然として豫定の行動を變せざるが第一であります。而して第三國が如何なる態度に出るかと云ふ事が問題でありまして、世間種々の意見がありますが、茲に卒直に斷言しますればソビエトが公然戦争に参加するか、英國が列國と聯合して經濟封鎖を爲す事より外に仕様はないかと思はれます。尤も列國の聯合は全然出来ないことは明瞭であります。夫で我々は如何なる最悪の場合に遭遇しても、斷じて不覺を執らぬ決心覺悟が必要であります。私は我皇軍の實力は如何なる場合に處しても、十二分の要意あるを確信して居ります。而して此事變が早く落着しても、又相當永引いて片付ても、或は第三國が現れ出て戦局に一大變化を來しても、結局は我國に有利に解決して、平和的大發展



の機會到來して、支那國即ち支那人を赤化より救ひ、日支間の經濟貿易等は戰前より一層繁昌する事を、確信して樂觀して居ります。尤も私の樂觀なるものは、唯漫然として樂觀するものではありません。前にも述べました通り如何なる變局に處しても不覺を取らぬ要心覺悟をなして、而して初めて終局を樂觀するのであります。之を要しまするに、今日の時局に善處するには、銃後に居る我々國民全部が一大決心を爲して、所謂捨身の戦法で行きたいのであります。

抑も捨身の戦法とは、海軍航空隊の平素の練習は、一機一艦主義で訓練して居ります。即ち爆撃機一機を以て敵の一軍艦を必ず撃滅する決心覺悟であります。即ち我一身を以て爆弾と共に敵艦上にブチ付けさえすれば百發百中でありませぬ。之が即ち捨身の戦法であります。

此捨身の戦法こそは全く世界無比の戦法で真に大和魂の發露であります。此

戦法は單に海軍飛行機練習のモットーであるのみならず、あらゆる方面に此捨身の戦法で掛らねばなりません。即ち實業家でも、外交官でも、政治家でも此捨身の戦法を能く味ひ能く覺え、能く納得して行けば、必ず何事でも成功するものであります。其捨身の戦法とは唯元氣許りで野豬的に勇氣を出すと云ふ意味ではありません。

勇斷決行の前には、沈思熟考を要します。即ち沈着にして而して勇敢なる行為が捨身と成りて現はれますから成功するものであります。此決心さへあればソビエト何かあらむ、九ヶ國條約何かあらむ、經濟封鎖何かあらむであります。

然るに目下我國には此變局に處するに誰と云ふ偉大なる人物なくして、唯國民一般の常識で大勢を善導して居る様であります。明治維新當時の様に西郷な



く大久保なく木戸なく、又ヒットラーも居らずムツソリーニも居りません。確かに偉人傑士なくして國運は隆々と進んで居ります。偉人傑士がありて發展しつゝある國運は、偉人傑士百歳の後には其進展は停頓するやも知れませんが、誰も指導する偉人なく、傑士なく單に國民一般の常識が高まりて進展する我國の隆運こそは、底止する所なき勢であります。

是れ畢竟するに、萬世一系の皇室を戴き、聖天子上に在します、其御稜威の然らしむる所であります。

神祕的此氣分、此信念と云ふものは西洋人では決して判りません。我々大和民族であつて初めて分るものであります。私は毎日我が八疊の書齋に獨り端坐して、靜かに天佑を祈りて居りますと云ふことを申上げて此講演を終ります。

## 時局所感と海洋立國に就いて

本文は熊本放送局開設十周年記念に際し、昭和十三年六月十六日午後七時四十分東京愛宕山上東京中央放送局に於て全國中繼を以て放送せられたる記念講演の全文速記なり。本講演は朝野の間に多大の絶讃を博し、輿論と反響の絶大なるに鑑み、東京中央放送局に於ては放送後一兩日を経たる六月十九日日曜午前十時四十分より、更に録音に依り全國に再放送するに至れり。

一方安達先生の御手許には、帝國水産會野村會長を始め、知名の士よりは勿論巷間の漁業者或は調理師其他雑多の人々等に至るまで續々讃辭を寄せ來たりたる有様なりき。(編者識す)



## 一、放送事業の回顧

本日は九州熊本に放送局が設置せられまして、十周年に當る記念日であります。回顧しますれば十有餘年前、私が故犬養毅君に代りて逓信省に入りますると、犬養君時代に生れた放送事業即ち東京、名古屋、大阪に各一キロの小さな放送局が分立してゐるのを、之を纏めて全國的大規模なものになすべしとの意見が起りまして、其方法に就いて株式組織にすべしと云ふ意見と、法人組織にすべしと云ふ意見が對立するに至りましたが、私は斷然法人組織に決定して今日の放送局が成立したる次第で、熊本の放送局も全國的計畫中の其一でありました。當時は十キロの放送を爲す計畫に就いて、海軍省と逓信省との間に波長問題が起りし位でありましたが、今日は百五十キロの機械を据ゑ付け、而して

聴取者三百七十萬に達せんとする大發展の實況を目撃して往時を追懐しますれば、茲に放送事業を通じて我日本帝國の飛躍發展の姿が窺はるのであります。

私は自ら計畫したる事業の十周年記念日に際して、今日の時局に對する所感と、平生懷抱する海洋立國策の一端を陳べまして諸君の御參考に供しようと思ひます。

## 二、時局所感

從來支那の國情を批評し判断しまするに、支那には所謂心臟部がない。故に天津、北京を取られても彼は平氣で居る。上海を取られても參つたとは云はぬ。南京の首府が陥落しても亦洒々として居る。即ち下等動物の蚯蚓の様なも



ので、胴體を中央から斷ち切られて兩方とも生きて居るのと同様であると云つて居ります。私も是れ迄は度々右様の話を爲して居りましたが、最早今日となりてはさう許りでもないと思はれます。何となれば北京・天津を取られ、上海を喪ひ、南京を占領せられ、而して津浦・京漢・隴海の三大鐵道即ち國家の大動脈を取られ、遠からざる中に漢口を失ひますので、さうなれば胃も腸も肺も腎臓も取られ、即ち内臓の機能の全部を取られたものでありますから、之では如何に下等動物と雖も生きて居らるゝものではありません。況や國家をやであります。

就いては蔣政權も全く一つの地方政權に墮落するより外はないのであります。唯第三國が支持して居るから未だ呼吸が止まらずして居る丈と申して宜敷いかと思ひます。それで蔣政權は漢口陥落と同時に地方政權に沒落するものと

して考慮を拂ひ、而して彌北支、中支に對する諸般の政策確立の要あると思ひますが、私の考へでは今後の對支政策の實行には何と申しても其主腦に推し立つる人が第一である。即ち人が本位である。人其人を得ざれば百日の苦勞も徒勞に歸する虞がある。依て此の際眞に我國を理解し、眞に同心一體となりて日支親善、共に與に萬難を排して進まうと云ふ人を得れば萬事好都合に進展致しますけれども、若し其人を得ざれば將來意外の蹉跌を招くの虞がありますから、此の點に慎重の注意を爲すことが最も緊要緊切と考へます。

又蔣介石が漢口遁走後は北支、中支の支那人の心理状態は必ず急轉して我國に信賴の度を増すものと思ひます。そこで我在支官民有志の方々が、此の際此の機を逸せず、全支の民心安定に努力せられたならば、日支の貿易は復舊するのみならず大いに發展するだらうと思ひます。何となれば戰亂後は國民の生活



は比較的向上するのが從來各國歴史の證明する所であります。支那民衆如何に疲弊せりと雖も一度日本の日の丸の國旗を見たならば、其の生活の何處にか變化向上の意志動くは必然にして、屹度日本品の販路は開拓せらるゝものであります。況んや從來の生活必需品に於ては云ふ迄もありません。故に今後遠からざる中に大阪、神戸は勿論、北海道方面などの對支貿易の商店は居ながらにして繁昌するものと思ひます。

扱て時局に對する所感は此の位に止めまして、是より極く短時間に平生懷抱する海洋立國策の一端を述べようと思ひます。

### 三、海洋進出は大和民族の使命

元來私は三十有餘年前から海洋立國、即ち我國は海によりて立國の基礎を建

つべきものであることを主張し、而して北進又南進、即ち北は大陸に向つて支那は勿論滿洲・蒙古を経て西比利亞方面に進出し、南は蘭領印度諸島其他に平和的に進出することが大和民族の使命であると固く信じて居るものであります。海洋問題と云へば先づ海軍々備の充實を考慮せねばならぬことは當然であります。併し之は特別の問題として茲には海洋政策を大別して、通商貿易と海運と水産との三つに分ちますが、今日は第一・第二を省略しまして専ら第三の水産政策に就いてのみお話しようと思ひます。

諸君は茫々たる海を眺めて青海原と申します。此青海原も、五穀稷々、米や麥や大豆などの生ひ茂りて實りたる大原野と同一の價値あるものと先づ考へて戴き度い。而して後、世界地圖を披いて筆を執り、北亞米利加のアラスカ方面の公海から太平洋の眞只中に線を引き、一轉して我委任統治のマーシャル群



島、カロリン諸島を廻り、更に支線を南氷洋に伸ばして捕鯨船の活躍場を示し、夫より蘭領印度を包圍して支那海に及び、日本海に入りてカムチャツカやらベーリング海やらアリューシャン群島を包圍して、アラスカの方面に戻りつく線を書いて御覽なさい。如何に膨大なる線が地球上に出来るか。而してこの線内こそは我々同胞の勢力範圍だと考へますれば、我々は随分大きな氣分になり得るものであります。而して此の廣い線内に於て大きな鯨の世話から、小さな蝦、鱒の世話から蛤、蜆、若目、昆布の世話までせねばならぬのであります。若目、昆布の世話とは海の中に若目の畑、昆布の畑を作ることでありませぬ。

#### 四、海洋調査の必要

夫れから太平洋を始め各方面の海洋の深淺を測量調査する事であります。此

の事業は海軍水路部の事業と思ひますが、漁業に大關係あるものであります。私は十年前和歌山縣田邊町に遊び、同地に在る縣立水産試験場を訪ひましたが當時の場長飯尾氏より、潮の岬燈臺から直徑二百哩の太平洋上に淺い所が発見されました。こゝに出漁致しますと魚族が非常に居りまして何時も大漁であるとの話を聽きました。所が最近の新聞紙上に、高知縣の沖合に從來の海圖に無い淺い所を発見せりとの記事を見ましたが、海洋中の淺い所は魚族の休息所として集まる所でありますから、是れを発見することは漁業の發展上大關係ある問題であります。

又海流の調査も一と通りは現在出來て居りますけれども完全なりとは申されませぬ。殊に魚族の蕃殖に關して、我々の正月元日にお膳に上ぼす數の子の親魚を始め各種魚族の蕃殖する現場、又は棲息の状態の調査等も未だ徹底を



缺いで居ります。或は國際關係の問題としては臘臍獸保護條約の再検討であります。臘臍獸は鮭鱒などを食料として居りますが、彼の爲めに年年鮭、鱒類の喰ひ盡さるゝものを計算したら一千万圓以上の價格に上るだらうとの事で、此の條約の改訂は當然起るべき問題であります。其他日ソ漁業條約の根本的解決は申すまでもありません。

之を要するに先きに畫きました線内の海洋の上に起る大小の問題の集まる所が水産局であります。水産局如何に人物揃ひと雖も斯かる膨大にして雜然たる問題を處理解決するには、現在は間に合うても將來には其の機構を擴大せなければならぬことは當然かと思はれます。然しながら念の爲め繰返して申して置きます。私は只今此の機構の改革を直に爲すべしとの意見ではありません。今後幾年かの後には諸般の事務膨脹して、如何に壓窄しても遂に壓窄出來ずして

行政機構の擴大となり、獨立となるものと思つて居ります。

若し、夫れ一たび海の研究を科學上より專攻しまして、海水鹽の偉大なる效用は云ふ迄もなく、海潮の干満の壓力を利用して動力を起す計畫の如き、或は海底に埋藏する金、銀、銅、鐵、又は石炭石油等の鑛脈探檢の如き一種の理想を附け加へまする時には海洋の問題は是からで、其の神祕は測定すべからざるものありと申して宜しいかと思ひます。要するに海洋問題は今後益々發展するものが自然の大勢であります。

### 五、鱈は肴の第一位

又私は先きに小さな鱈の世話を爲さねばならぬと申しましたが、此の小さな鱈の世話が如何に大問題になるか一言致さうかと思ひます。



元來我國の習慣では鱈を劣等なる肴として取り扱つて居りますから、第一に此の習慣を打破し、其の待遇を改善して肴の第一位に置くことにせなければなりません。何故なれば先づ分析の結果よりして滋養分の一番豊富なること、而して其の味も最も美味なるからであります。茲に専門家の鱈を調査したるものを紹介しますれば、鱈には人體の組織構成に必要な蛋白質、而かも牛肉に匹敵するものが多量に含まれ、次にカロリー即ち活動の原動力となる脂肪が澤山あり、其の上ビタミンB及びDがあるとのことでありす。

又其の生産高は、我國沿岸漁獲物總數量の十分の五乃至六に當り、一ヶ年無慮三億五千萬貫を超えたることあります。而して北は北海道より東北、關東の沿岸を初め北陸、四國、九州到る所鱈の産地許りであります。斯く各地に多量に獲れ、現在では其の大部分を肥料にするなどと云ふ事は、全く宇宙大自然

の所謂天意に反したること、天は此の美味の滋養分に富みたる魚肉を與へて日本人の體質を強健にしてやらうと云ふ意思あるに拘らず、我々は今日迄之に氣附かず、否氣附いて居る者もありません。實行出來ずに日一日と推移して居るのであります。

#### 六、一舉三得の重要問題

處が今年の豫算に三十五萬圓だけ此の計畫の經費が現れ、少し許り芽を出したのは實に我意を得たる次第であります。此の計畫と云ふものは鱈の原産地の漁村と遠隔の供給地に冷蔵庫を造つて、生鱈を一般の町村に低廉に配給すると云ふ案にして、私多年の考案の片鱗の現れであります。之を全國的に普及せしむるには其の組織、其の方法を如何にするか、大分多額の經費を要するから



して一大問題として考究せねばなりません。

元來日本人には殊に農村の人々には、魚肉の蛋白質や脂肪分を取ることが足りません。往々我々の仲間には、日本人は菜食が宜敷い、別に滋養分を取る必要なしと云ふ者がありますが、夫れは上流社會の人々か、年老いたる所謂老人間の話であつて、年壯氣鋭の人々や、農村の人々にて活動せねばならぬ者には、相當の魚肉の滋養分を取る必要大いにあると信じますのみならず、我々日本人には其の滋養が缺乏して居るから肺結核菌に對する抵抗力が弱いと云ふ説があります。是は單に學説のみならず事實なりと信ずるのであります。

今や厚生省が出来まして、衛生行政は一段の進歩を見んとし、結核菌の豫防撲滅に就いては全力を傾注して居りますが、此の目的を達することは容易ではありません、ヤレ療養所の新築・増築・ベッドの増加、ヤレ早期診断・外氣療

法・日光療法などと當局の熱心維れ日も足らざる活動は大いに感謝する所でありますが、之は結核菌に對する正面攻撃であります。之を今回の日支戦争に譬ふれば、恰も上海戦の大場鎮攻撃の様な感がありますが、一方に鱷の冷蔵庫を造つて一般民衆に之を配給し、國民の榮養を良くし、蛋白質や脂肪分をより多く攝取せしめて、結核菌の發育傳染を防禦することは恰も杭州灣に上陸して上海の敵軍に背面的攻撃を爲すが如き心地致しまして、結核菌驅逐が非常に容易となるかと思ひます。若し果して然るときは單なる鱷問題は一變して漁村の繁榮問題となり、再轉して町村の健康問題となり、三轉して結核菌の豫防撲滅問題となり、一舉して三得となると思ひます。

## 七、水産業は海外發展の基礎



私は最後に我々大和民族は北にも進み、又南にも進むのが天の使命であると云ふ國策遂行の基礎觀念から、今日の國際關係を眺めますると、北方大陸方面は勿論南洋方面の陸上に於ても我々同胞が少しく動きますると、世界列國の中には日本は領土的野心の爲めに動くかの如く邪推する者があり、我方も大いに注意して毎度毎度餘りに正直過ぎる程、領土的野心なきことを説明して居りまするが、海洋即ち公海の上の活躍には、何處からも日本は領土的野心ありと非難攻撃する者も無い様でありますから、水産業者は堅く國際法規を守り、他國の領海外に於て飽く迄正々堂々の態度を以て活動せらるゝことが必要であります。而して水産業を保護獎勵助長して、地球上の海洋の大部分を占めんとするものは、古今東西に於て我大和民族許りかと考へまする時には眞に快心に堪へぬのであります。

水産業が我々民族海外發展の基礎となり、之を内にしては國民の體質改善の土臺となり、漁村は云ふまでもなく一般農村の振興に大影響あることを思へば、水産業の前途は頗る多事多望なるものがあります。

私は目下大陸政策の聲高き場合でありますから、我帝國の國是は海陸併行共に與に進まねばならぬと云ふ注意を喚起する爲め、平生の持論の一部を披陳して諸君の參考に資したる次第であります。



# 對支根本方針に就いて

本文は昭和十四年七月十日、當時の平沼内閣に對支根本方針に就いて要請し、眞の東亞建設に關して鞭撻せられ、次いで朝野の識者に覺醒を促されしものなり。(編者識す)



今を距る八年前、滿洲問題の勃發を契機として、我が帝國の對支方針は北支に重點を置き、軍事、政治、産業、皆北支方面に限りて其關係を親密にし、其發達を奨勵し、中支之に次ぎ、南支に至りては殆んど無關心なるものゝ如き傾向を呈しつゝあり。是れ第一北支が滿蒙と境域を接する爲め、國防上の見地より右様の傾向を呈せしことは當然の趨勢なりと謂ふも失當ならざるが如し。第二には國際上、英米其他の利權關係が比較的僅少なる北支を以て我が産業、貿易發展の餘地ありとし、中支南支に於ては、列強、就中、英國既得の權益と衝突し喰ひ合ふの掛念ある爲め、成るべく之を回避せんとせしものならん。露骨に直言すれば、英國の感情を刺戟せず、出來得る丈之との摩擦を避けつゝ進まんとしたるが爲め、中南支に於ける我國の活動は消極的となりたるものなり。この事は、今回の事變勃發後の諸般の行動及施設に就て一々其實證を列舉指摘

せずとも自ら明瞭に察知せらるゝ所なり。

從來の對支根本方針なるものは、滿洲獨立當時に蘇國のみを對手とし、滿蒙國境警備を基礎として考慮立案したる方針なり。今日に在りては諸般の事情は一變せり。日支事變勃發して茲に二周年。蔣介石は奥地の一隅に追ひ詰めらる。然るに英國は舊夢未だ醒めずして、依然援蔣政策を固執す。戰線九百里、民衆二億を占領地域内に保有しつゝあり、而も猶ほ舊時の方針を墨守して之を展開擴張することを爲さざるが如きは全く大勢に順應せざるものと謂ふべし。若し氣附かずして之を爲さざれば是れ凡迂の極、若し知りて之を爲し得ざれば是れ恐英痼疾患者の失態なり。

抑も、中支就中、南支方面の土地は肥沃にして、天然資源に富み、人口稠密にして文化大に開け、産業も貿易も俱に發達、殷盛なることは茲に縷々詳述の



要なし。依りて我が帝國が日支親善を高潮し、東亞新秩序の建設を叫び乍ら、若し此の方面に於ける活動と施設を閑却することあらば、全く其意味を爲さざるなり。今茲に、國際的利權問題の一例を舉示せば、最近我が皇軍が占領したる汕頭より、潮洲に進み、更に若干奥地に入らば、世界産出額の八割を占むるタングステン産出の地方なり。若し我が商人が、該地方に入り込み、此の礦物の大部分を買ひ占め得たりと假定せよ。世界の軍需工業會社を驚倒せしめ、米國當局者の如きも全く色を失するならむと思はる。斯くなる時は、經濟斷交どころか、彼の方より我が國の需要物資は悦んで呈供して、之と交換を懇請するに至るべし。

從來、廣東廣西地方は抗日、排日の根據なりき。是れ畢竟するに、日清・日露の戦役を始め、其他の我國の出兵が皆北部の地域のみに局限して、南部は一

回も我が皇軍の威力に接したることなきことが確かに一つの遠因なるが、元來南方の人民は、比較的勇敢の氣風あり、故に排外的氣分が横溢して、排日、抗日となりて顯れたる場合少しとせず。今假すに相當の日時を以てすれば、此の氣風を一變して、却つて熱心なる親日となすことは決して難事にあらざると云ふ者あり。又白崇禧、李宗仁の如き該地出身の有爲の人物は、元と蔣介石と同心一體の人に非ず。故に政局轉換の機到來すれば、我が方と接近すること決して不可能には非ずと思はる。又南支一帶の沿岸は世界に散布し、巨萬の富を有する數百萬華僑の郷土なり。華僑問題は對支政策の一問題として取り扱はれざる可らず。我國官民が特に其の郷土と接近することは、斯の問題の解決に非常の影響あることは多言を俟たずして明かなり。

之を要するに、當路者にして、支那の國勢民情に徹底せる一定不動の識見を



有して、日支間の大勢を善導し、我が對支方針を北支のみに偏倚せしめず、中支は勿論、南支方面に對する施設經營をも積極的に計劃して、眞の東亞建設に邁進する事が、今日の最高最要の措置なりと信ず、茲に敢て一言して天下の識者に問ふ耳。

## 事變處理の要諦

大日本放送會館新築落成記念のため、特に東京中央放送局より懇望あり、昭和十四年五月十四日午後六時二十五分より、全國に中繼放送せられしものにして、事變中に錯綜する敵性ある實際關係に鋭きメスを揮ひ、事變處理の眞髓を喝破せられし、感銘深き講演である。(編者識す)



## 一、英國の我國に對する政治的感情の奥底

私は茲に現在の時局に對する意見の一斑を述べまして皆さんの批評を乞ひ度  
いと思ひます。却説現下の時局は蔣介石が敗戦又敗戦の極、疲弊困憊、遂に我  
が軍門に降りて和を請ふの時か、又は彼が没落下野するの時、一段落の機會到  
來するか。或ひは又英國が極東に對する方針を一變し、從來の蔣介石援助を全  
然思ひ切りまして、東亞既存の勢力を維持するには、日本に接近するより他に  
良策なしと自覺したる時には、時局解決の曙光が見えまするかと思はれます。

そこで蔣介石の軍隊を我皇軍の力で殲滅し盡して仕舞ふの意氣込にて、陸海  
空の三軍の將士が、日夜努力奮闘して偉大なる戦果を收められつゝあることは  
私共の感謝感激措く能はざる所でありますが、今茲に蔣介石を背後より援助

して居る第三國、就中英國の態度に就き卒直公平なる意見を述べて見たいと思  
ひます。

先づ英國は此の日支事變に就いて、如何に其對策を考慮して居るだらうかと  
云ふことを、即ち彼の心事を忖度して見ますと、彼の胸中には、『支那は阿片  
戦争以來約百年間、我が勢力を扶殖したる一種の殖民地同様の地方であるが、  
近年日本が頻りに擡頭して、此地方に發展することは、英國衰亡の基となるも  
のにして、日本一步進めば英國一步退かねばならぬ、一步一步又一步の退却は  
寔に憂ふべき形勢であるが、此の事變が若しも日本の希望通りに解決せば、夫  
こそ英國は支那より從來の勢力の三分の二か、四分の三は退却し失墜せねばな  
らぬ。實に由々敷一大事である。唯だ此際一縷の望みとする所は、日本は如何  
に戦争で大勝利を博しても、財政經濟の持久の力は脆弱である。開戦後一ケ年



か二ケ年も経過せば必ずヘタバルだらう。其結果は世界戦争の獨逸の二の舞を演ずるに相違ないから、其時こそは日本を抑へる機會が到來するのである。又一方には佛國フランスは云ふ迄もなく蘇聯ソヴェエツトをも出來得るだけ煽動して蔣介石を援助せしめ、而して米國には三拜九拜して對日感情の悪化に努め、以て日本牽制の一大勢力を形作りねばならんと。』以上が英國の思惑でありまして、其日本觀は全然誤りて居りまするけれ共、米國勸誘政策は目的を達して米國を動かして彼の思ふ壺に嵌らしめた様であります。右様の次第でありますから、此の際に當りまして、我が國に於て現状維持の舊思想によりて、英國と從來の親善關係が繼續せられて、時局問題が解決し得らるゝと思ふは全く時代遅れの甚しきもので、餘りにお人好しだと思はれます。私の考へでは英國の我國に對する政治的感情の奥底には頗る深刻なるものありと考へるが當然と思ひます。

## 二、東亞新秩序の建設は舊秩序の破壊

然るに戦局が長期戦に入るに隨ひ、東亞新秩序の建設と云ふ事が、各方面に頻りに唱導せられますることは大に喜ぶべき事でありませう。殊に去る三月四日午後七時半より、平沼總理大臣が支那の現地に於ける南北兩政府によりて行はれたる、東亞新秩序建設週間に呼應して、マイクを通じて演説放送殊に國際放送をもなされた、其趣旨は私共の主張と全然一致し双手を舉げて賛成する所でありましたが、私共の賛成すると同様に英米人等は彼の放送を聞いて成る程御尤もと感服したかどうか、私は感服所か却つてイヤナ感情、寧ろ恐怖の念を以て之を聞いたではなからうかと思ひます。何となれば東亞の新秩序建設と云ふことは東亞に於ける舊秩序を破壊すると云ふ事になる、即ち英米佛既存の勢力



を破壊し去ると云ふ意味に誤解せらるゝからであります。殊に總理大臣の意見の中には『支那を他國の植民地化するが如き歐米人の唯物思想を支那全土から絶対に放逐しなければなりません』と、強く斷言して居らるゝ所は、私共の大きに賛成する所なるも、英米人が心から歓迎する所ではなからうと思はれます。

依て前述の如く反日思想の深刻なる時に、平沼總理の演説を實現せんとするには我が國も眞に一大決心を爲して、所謂コワ持てで押し通して行く決心がなからねばなりません。唯口先き許りで即ち口舌のみで納得さすることは至難と思ひます。故に私の意見としては此の時局解決の道程として第三國に對する態度を一變し、我が方より積極的に彼の蔣介石援助に斷乎たる抗議を申込む事があります。

### 三、先づ英國を射よ

古人の言に『王を射んとせば先づ馬を射よ』と云ふてあります通り、蔣介石を射んとせば彼を脊に乘せて居る英國を先づ射るのが必要と思はれます。サレバと云つて鐵砲を打ち掛けると云ふ意味ではありません。茲に戦争以外の我が活動の力で押し切ると云ふ意味であります。

事變以來の國際關係を眺めて居りますると、第三國より揚子江航行權の如き種々の既得權回復問題を提起し來り居る様でありますが、私は斯る要求に對しては一言に之を峻拒して、而して我が方より積極的に逆に彼の急所、弱點、最も痛い所をグン／＼と押えて、彼に向つて蔣介石援助を中止するかせぬかを先決問題として談判することあります。其談判に就いては種々の方法もあり



又種々の材料も存在すると思はれますが、取り敢えず誰にも目に付いて居るのは第一法幣問題の如き、第二揚子江問題の如き、第三上海天津等の租界問題の如きは、其取扱ひ次第には非常に有力な問題となると思はれます。上海、天津租界問題に就いては過日來陸海軍協力の許に、斷乎たる決心あることを聲明せられ、外務省も相呼應して三浦總領事をして強硬なる意見を申込ましめたりとの事で、是れ眞に結構であります。若し何時迄も愚圖々々して埒明かざれば其時こそは百尺竿頭一步を進めたる措置に出でる事が當然なりと思ひます。上海天津の租界が排日抗日の策源地であり、暗殺陰謀團が巢食うて居りて、テロ事件の頻發は一再ならずであります。又新聞雑誌は勿論、生意氣にも國民精神總動員と云ふ我が國と同様の看板を掲げて、排日抗日の宣傳を爲しつゝあることは公知の事實であります。

然るに從來の抗議は恰も糠に釘を打つの感を懐かしめて居りましたが、今回の交渉は果して如何、必ず效を奏するだらうと思ひます。併し私をして卒直に云はしむれば、根本的の規則の改正は時日を要するから之を宿題とし、何とか應急の手段方法あるものと思はれます。又揚子江航行權問題の如き、法幣問題の如き、其他阿片問題の如き、關稅問題の如き、大小幾多の問題が彼等に非常に利害の關係する所廣汎なるものありますから、我が方にて從來の行掛等に捉はれず十分研究、調査して之を利用して、彼等に反省自覺の材料となる様に仕向けて行き度いものであります。

#### 四、リースロースでもサツスーンでも

以上の様な談判は唯だ單に外務省の御役人許りでなく、陸海軍人も、在野の有



志家も、商賣人も、皆一致協力して一團となりて活動せねばなりません。而して向ふの相手も外交官や市政府などの要人のみでなく、經濟界の大立物を倫敦に於ても、上海に於ても探し出して之を動かすことが緊要であります。即ちリースロスでもサツスーンでも動かして、此處迄日本が決心すれば、モークソ迎も叶はぬ、餘り逡巡躊躇して居ると我が支那に於ける經濟力を表からも裏からも破壊されて仕舞ふから、寧ろ速かに日本と接近しようと、彼等が先づ甲冑をぬいで出て来る様にしたいものであります。私は我が官民朝野の決心次第には、其處迄遣り附ける事が出来得るものと信ずるのであります。

之を要するに英米其他の列強が日支事變勃發の初めより日本は軍隊は強い併し經濟力は脆弱だ、夫れで持久戦には堪え得ぬと觀測して居りた事が間違いでありて、日本に偉大なる底力のあることが、今度の事變に逢着して漸次分り

て参りました、今後尙ほ此の儘時局を長が引かすることは、日本よりも自分等に非常に不利益である、寧ろ速かに解決する様に導く事が得策であると、自覺覺醒せしめねばなりません。

彼の老獪にして所謂『海千山千』の英國相手の事なれば我が所信を貫徹せしむることは容易の業ではありません。併し彼れの腹の奥底には最後には干戈に訴えてでも之を争ふ決心は斷じてありません。縦合力を以て之を争ふの態度を示しましても、夫は威嚇であり眞に其力を實地に用いる勇氣はありません。尤も東洋には其力もないのであります。而して一方に利害の打算は最も敏速なるものがあるから何時でも方向轉換は容易であります。

英國は先般來米國に三拜九拜、裏ら表から手を代へ品を代へて日支事變に共同動作を取ることに勸誘之れ勉めて居りましたが、米國當局も人民も漸次彼の



勧誘に引き込まれて、反日の感情大に昂まりたるものゝ様であります。故に我國の米國親善論も悪くはありませぬけれども、世俗の所謂『磯の鮑の片思ひ』で世界の外交史上の物笑ひとなりてはいけません。依て今後の米國の態度は大に注意を要するものがあります。

此に於て我が國が此の國際政局を乗り切つて、支那問題を解決するには、先づ腹をきめる、即ち大決心を爲す必要があります。斯く申せば最早事變勃發直後より、大決心して居るではないかと申す人もありませうが、私は未だ眞の腹はキマツて居らぬと思はるゝ節せまがあります。然らば腹を如何にキメルかと申せば、日本武士道に則つて決心するのであります。

### 五、最悪の最悪の場合

其決心とは先づ第一に最悪の最悪の場合を豫想し覺悟する事であります。尤もアラユル方面に最善の手段方法を講ずるは勿論でありますも、若し米國が英國に引きずられて、共同動作を取り、物資其他に不足不便を感じるが如き場合に到來しても、泰然自若として即ちビクともせずして其難關を突破する覺悟であります。即ち最悪の場合とは物資も缺乏し、海外貿易も振はず、産金も不足し、各方面とも意の如くならざる場合を云ふのであります。尤も斯る場合は到來せずと信じて居りまするけれ共、若し到來したらば、其時は不便を忍び缺乏に堪えて、有る丈のもので最大最善の事を爲す覺悟決心を爲すものであります。

### 六、捨身の中央突破



此の變局に處しても尙ほ現状維持の舊思想を脱し得ずして、何とか成るだらうと考へて、日又一日を送る様な事があつては、全く不覺を取りまするけれども、早く最後の決心覺悟をキメて掛り居れば、其決心覺悟は非常に強いものでありまして、所謂捨身になりて一種の中央突破の戰術で進めば、如何なる難關をも打ち破ることが出來得るのであります。

蔣介石を援けて日本に長期抗戰せしむる事が英國に非常に不利益となれば、彼は其援助政策を中止致します。眞に中止しますれば此の時局は半以上解決した様なもので、唯だ蘇聯と支那とのみの關係ならば國際關係は非常に單純となりまして、武力の援助も知るべきのみと申して宜敷かと思はれます。私は此の際我國朝野官民一致の力で行けば、必ず其目的は達せらるゝものと信じて居ります。私は繰り返して申しますが力であります。決して、ゼスチユア外交では

ありません。又恫喝外交でもありません。我が國民の誠意と熱情と結晶せる力で押し切りて、我より逆に彼の短所、彼の急所を抑へてグングン突き込みく進んで行つて、初めて英國も其他も目を醒まし日本に斯くチャレンジは迎も堪えられぬ、サレバと云つて武力を以て日本を威壓せんとすることは思ひも寄らず絶對不可能である、日本と戰端を開く勇氣と決心は全然ないとすれば、結局日本の主張を容れ日本に接近したる方が、自國に利益なりと自覺するに至るものであります。

又我國として長期戰を爲して、一方に東亞の新秩序建設に着手する以上は興亞院初め其他の新機關を活動せしめ着々其效を收める方針を執らねばなりません。併しアセリてはならぬ。元來支那問題を解決するには堅き決心を爲すと同時に、アセラズ氣長くユツクリする氣分及態度が必要であります。而して此時



局解決が永引けば永引く程、内地は云ふ迄もなく、滿洲も北支中支に於ても、重工業は勿論、輕工業も其他の平和産業も發展して、工業立國の基礎を擴大し強固にして、第三國が疲弊困憊するならんと期待して居りたるものを裏切つて大發展するに至らしめねばなりません。

### 七、世界の思想界に向つて宣戰布告

私は最後に一言致します。日支事變勃發以來、我が國朝野官民の間に八紘一字とか、東亞新秩序の建設とか云ふ詞が盛んに流行し、諸般の施設經營も亦此の詞に含まれたる理想の實現に向つて着手せんとする傾向なるは眞に欣快とする所ありますが、能く深く靜かに研究致しますると此の詞によりて言ひ現はされた理想は、目前に横はる日支事變を超越して、我國は世界の思想界に向つ

て宣戰を布告し、思想戰線の第一線に立つて發砲したると同一の感があります。なせなれば第一に八紘一字と云ふ神勅の一語は、我々には世界一家の平和的人道主義の理想として非常に有り難くナゴヤカな感じを與へまするけれ共、世界の個人主義自由主義國家の人々の耳には、彼の好戰國民即ち戰爭スキの日本人の八紘一字とは世界併呑の意味であると響きます。又東亞新秩序の建設とは東洋より歐米人の舊勢力を追ひ拂ふの意味だと誤解し邪推し了りて、茲に東西思想上非常の誤解が出来、距離が出来、矛盾が出来まして一大衝突、即ち思想界の一大戰爭が展開されて居ります。元來個人主義を以て打ち固めた英米佛人等には東洋流の仁義道德論やら、我皇道主義の眞髓の所はまだ中々諒解は出来ません。又私共日本人は今回の日支戰爭を非常に尊き高尚なる聖戰と考へて居りまするが、彼等は之を自分流儀に解釋して、日本人の領土的野心の略奪戰だと



申して居ります。殊に英國人は其利害關係最も深い所から憎惡、嫉妬の念甚だ熾烈にして、彼のロイドジョージは支那事變は日本が印度の横腹に短刀を差し附けたものだ。何を愚圖々々して居るか、政府當局及國民を激勵して居ります。彼の國一流の政治家が右様の激語を弄する様な状態でありますから、彼等の思想と我々の思想との距離の甚だしき事は明瞭であります。ソコデ我々の此の高遠なる理想の實現を期するには、一大決心を以て世界の個人及自由主義國家の思想界に向つて一大宣戰を布告し、コミンテルンの征服の前に先づ此の個人主義及自由主義國家の思想を征服せねばならぬ大任務が到來して居ります。

#### 八、正を踏んで怖れず

依て此際に處して敢て親英とか親米とか從來の行掛りに拘泥せず、列國に對

し正を踏んで怖れずと云う覺悟を以て、世界を大股に踏み占め踏み占め、所謂横行濶歩の姿勢を以て、偉大なる大日本帝國の眞の姿を世界各國に認識せしめねばならぬと思ひます。是れが銃後に在る國民として一番大切なる責務であると深く感じて居る所であります。



## 國際情勢と日本の地位

本篇は昭和十四年九月十一日午後八時三十分、東京中央放送局より全國に中繼放送せられし、複雑、怪奇、而して變轉極りなき國際情勢下に處する、確固不拔の帝國の動向進路を指示せられたる大論說である。(編者識す)



一、多情多感勇敢優美なる國民性

日支事變の直ツ只中に於て、第二回の内閣更迭が行はれ、阿部内閣が成立しました。所謂産聲を揚げるや否や、歐洲に戦争が勃發しました。そこで阿部新内閣は、政綱政策等を發表する前に、まづ歐洲戦争に對する帝國の態度を世界に表明する必要に迫られ、去る四日（九月）の閣議を経て

『今次歐洲戦争勃發に際して、帝國政府は之に介入せず、専ら支那事變の解決に邁進せんとす。』

と言ふ簡單なる聲明を發表しました。この聲明文は私の幼少の頃、村夫子の家塾に於て大學か中庸かの簡潔古雅なる文句を読むやうな心地が致しまして、奥行が深く、含蓄ある文字で、之を強く解釋すれば、今後の變に處しては、如

何なる行動をも出来ることになりすから、私は善意を以て又頗る好意を以てまづ上出来と讃辭を呈して置き、其實現の方法に就ては、大に註文したきものがあるのであります。

そこで、阿部新内閣に對して、二三の註文をなすと共に、否寧ろ、その以前に於て、國民大衆諸君と我々とは、國際外交の常識に於て再検討をするの必要を感じます。何となれば、我々日本人の國民性は、勇敢にして優美、即ち一方勇猛果敢なると共に、他の一方にやさしくして、溫雅なるところがあります。即ち、秀麗なる山川風物の美や、かのやさしき、散り易き櫻の花を眺めて、大和魂を養成した多情多感なる國民性を持つて居ります。この國民性によつて、歐米列國の國際外交振りを眺めて御覽なさい。



## 二、通商條約廢棄は何を意味するか

私はこゝに、眼前の事實によつて證明しやうと思ひます。

第一米國が先月（五月）突然、我國との通商航海條約を破棄したる、その態度はどうでありますか。之は我國が支那と戦争を爲しつゝある行動に對する不平不滿の意思表示であります。

私は去る五月十四日、この放送局より講演しました時に、米國に就いて斯く申して置いたのであります。

『英國は先般來、米國に三拜九拜、裏表から手を代へ品を代へ、日支事變に對し共同動作を取ることに勸誘これ努めて居りましたが、どうやら米國當局も人民も、漸次彼の勸誘に引き込まれて、反日の感情が大に昂まつて來たやうであ

ります。そこで我國の米國親善論も、悪くはありませんが、世俗の所謂「磯の鮑の片思ひ」で、世界の外交史上の物笑ひとなつてはいけませんから、今度の米國の態度は大に注意を要するものがあります。』

と、かやうにラヂオでお話して置いたのですが、その後、幾何ならずして眞に青天の霹靂、通商航海條約の廢棄が現はれたのであります。いかに親米主義の人々でも、この信義を無視した米國の行動については、全く辯護の餘地はありません。私は恰も豫言者のやうな心地が致したのであります。

## 三、英國に背負投を食はせた蘇聯

第二には、蘇聯と英佛との軍事同盟問題であります。皆さんも御承知の通り、英國は佛蘭西と手を携へて是非とも蘇聯と軍事同盟を締結しやうとして、



數ヶ月間あらゆる苦心をなし、遂に代表全權を蘇聯に派遣して交渉を談判して居ります最中、蘇聯は秘密に獨逸と不可侵條約を締結して、英國に背負投を食はせ、英國をして茫然自失せしめたのであります。

併し英國はこの失敗を敢てしながら、チェンバレン首相は、責を負ふて辭職は致しません。

#### 四、防共協定強化の遷延

第三には、獨逸と我國との防共協定の約束であります。獨逸が、我國とこの協定があるにも拘らず、何等の豫告なくして、蘇聯と不可侵條約を締結したことは、たしかに信義を破つた行爲に外なりませんので、我國民が大に驚いたのは當然であります。併し、之を獨逸側から一言辯解せしむるならば、防共協定

強化の問題は、近衛内閣時代に提案した問題で、其後遷延又遷延、遂に決せずして半歳を経過し、その間、歐洲の形勢は大に緊迫して底止するところなく、背に腹は代へられず、已むを得ずかゝる行動を取つたのであつて、悪しからず御諒承を乞ふ、と言つて居るやうであります。

#### 五、惡辣陰險老獪なる英國

第四には、英國の行動であります。彼がこゝ二百年ばかりの間に於て、印度を征服し、支那を半殖民地とし、其他各方面に屬國又は保護國を造つた外交術の、巧妙老獪なること言語に絶し、我國も亦、その手に乗せられ、時としては日英同盟を結んで、東亞の番犬に使はれ、或は又、我國が少しく、擡頭せんとするや、同盟を廢棄し、九ヶ國條約などを以て我國の喉を扼し、手足を縛した



のであります。往年日英同盟廢棄の準備の爲め各殖民地の首腦を集めて、祕密に相談した時の如き、その冷靜深刻なる態度は、到底日本人の爲し得ざるところであります。

我々は、かゝる行動を陰險とか、惡辣とか、乃至老獪とか申しますが、彼等は之を悪いとは思ひません。當然のことだと思つて居るのであります。彼等は個人としては、眞に立派な紳士ですが、それが一度び國際關係となりますと、氷よりも尙、冷やかであります。

それは往古より、熾烈なる民族競争、國際競争の間に鍛鍊された國民性であります。そこが、先に申しましたやうに、多感多情、果敢にして優美なる我國民性では、到底諒解し得ないのであります。

## 六、國際外交の深刻味

かくの如く、歐洲列強は、甲乙丙丁共に、國際關係に於ては全然、自國の利害本位であります。現實主義であります。一度び自國に不利なる時には、從來の條約でも何でも弊履を捨つるが如く、廢棄してしまふのであります。國際外交の深刻にして、現實主義なることは、一般國民の想像以上であることを、よく體得して置く必要があります。

そこで、從來の行き掛りやら若い時から學んだ學問等に囚はれて、翻然その舊思想を改むることの出来ない人もあるやうであります。この國際政局の緊迫せる現在に於ては、かゝる從來の行き掛りや、學問などに拘泥せず、一意専心、大局に着眼して、時局の處理に對し、眞に舉國一致の基礎を確立したいも



のであります。

平沼前總理大臣は、道義外交と言ふことを唱導せられました。眞に結構なことではありますが、それは日本と滿洲と新支那との間にだけ行はれ得るに過ぎないのであります。現在の歐米列強の間には一切行はれ得るものではありません。そこで、我々も歐米列強と應酬交渉するには、その基礎觀念の置きどころを再検討して、歐米列強との交渉に不覺を取らぬことに注意せねばならぬ、と言ふことを、深く痛感するものであります。

### 七、長期か短期か歐洲戰爭の前途

次に、一言せねばならぬことは、歐洲に勃發した戰爭の前途であります。即ちこの戰爭は、いよいよ歐洲全體の大戰爭となつて長期になるか、或は又、

獨逸とポーランドの局部的戰爭が一段落を告げた曉に、伊太利などが仲裁に立つて、兎も角平和の解決がつくか、と言ふ二様の見方があります。この戰爭の状態が大に擴大して長期になるか、早く解決して短期で收るか、東洋の將來殊に我日本國の立場に、至大の關係があるのであります。

ヒットラーの考へでは、まづ一舉にポーランドを片づけた後に、伊太利をして仲裁に乗り出さしめ、種々の平和工作に應ずるつもりではなからうかとも思はれますが、この際、英國はどうなるか、如何なる態度を執るか、英國の態度こそ最も注意を要する問題で、戰爭が擴大して長期となるか、また短期に終るか、一に掛つて英國の決心如何にあると思はれます。

### 八、加藤高明伯の英國觀



こゝで一寸、二十五年前の歐洲戰爭當時の昔話を致します。

當時、我國の内閣は大隈内閣で、加藤高明伯が外務大臣でありました。私はその下に居て、時々伯の苦心談やら得意談を聞いて居りますが、その中で、伯の英國觀は、今日の場合、參考にもなりますから、こゝに簡単に申上げやうと思ひます。それはかうであります。伯曰く、

『自分は獨逸の國情はよく知らぬ。英國は多少研究して知つて居る。獨逸通の話を聞けば、其富強、其文明、其科學的進歩は、實に偉大にしてエライ。併しながら若干まだ上すべりして居るやうである。英國は遅れて居るかも知れぬ、最早年老ひたかも知れぬ。併しながら、まだく底力がある。それで佛蘭西戰場では英佛の聯合軍が連戦連敗して、遂にドーヴァー海峡まで追ひつめられるかも知れぬ。併し英國はそうなつても媾和はせぬ。何とかして最後の勝利を占

むるまでやり遂げると思ふ。』

と言つて居られました。この見方はアングロサクソンの民族性の特徴を言ひ現はした言葉として、今なほ記憶に新たなるものがあります。

### 九、英國の決心は如何

然らば、今回の戰爭に際して、英國の決心は如何と、その心事を忖度して見ますと、大戰爭を避けたいのは山々であります。若しこの儘、仲裁に應じて平和工作に入つたら、その條件の如何に拘らず、獨逸にやられることになる。こゝで一步獨逸に譲つたら最後、歐洲大陸に於て王座を占むることは出来な。多年傳統的の勢力は、こゝに全く喪失するのである。それだから今日の場合、國家興亡の岐るところであり、如何に苦しくとも最早目前の利害得失



等を超越して、アングロサクソン最後の運命を賭して、大長期戦を覺悟して戦はねばならぬ、と決心して居るのではなからうか。殊に戦時内閣を作つて、イーデンや、チャーチルなどの反獨逸強硬派を閣員に列したチエンバレン内閣は、そのやうに腰を固めて居るのではなからうかと思はれます。

### 一〇、獨逸の覺悟は如何

然らば、獨逸は如何。獨逸も亦、前回の歐洲大戰の苦境を充分經驗して居ますので、長期戦の覺悟準備も、相常用意あるものと想像せられます。殊に最近領土の擴大及び蘇聯との接近等によつて、食料及び軍需資料等の補給も自由になるかと思はれます。又優秀強大なる空軍を有して居りますから、前回の大戰當時よりも、餘程有利ではなからうか。そうなれば、この戦争はいよゝゝ長期

となつて、長引くものと見なければなりません。それですから、この戦争が短期で済むか、長期となるかは、ポーランドの征服が一段落を告げ、伊太利が仲裁に乗り出した場合の、英國の態度によつて、始めて判断がつくかと思はれます。即ちこゝ數日間の内に、大體の見込はつきそうであります。亞米利加の態度とか、蘇聯の動靜とかは、その後の問題であります。

### 一一、孤立獨行は大禁物

以上が、緊迫せる國際政局の一斑大要であります。この間に處して、我帝國政府が嚴然たる態度を持し、歐洲戦争には介入せぬとの餘地を有し、而して専ら支那事變の解決に邁進することは、當然であり、必然のことでもあります。然らば、事變解決に邁進するにしても、いづれの方面より着手するか。若し



單に聲明したるのみで、何等着手するところがなければ、それこそ全く國民を欺き、出征將士百萬の勞苦を無にするのみならず、戦死者在天の英靈に對して全く申譯がありません。從來、往々外交上の立場を説明して、自主獨往の文字を用いることがあります。素より外交國策の最後の肚を、自主獨往に据えて置かねばならぬことは論なきところでありますが、情勢變化の見透しを誤り、或は左顧、右盼、斷すべきに斷せず、小田原評議の裡に空しく機を逸した結果、餘儀なく孤立獨行するが如きは大禁物であります。

一一、第三國の援蔣を斷ち切れ

そこで支那事變を解決するには、皇軍の威力で蔣介石を重慶の僻地まで追ひつめた今日では、第三國の蔣援助の手を斷ち切ることが最も緊要なことであり

ます。

私は去る五月十四日午後六時二十五分よりこの大日本放送會館新築落成記念講演で、このマイクを通じ『時局所感』と題して、かう申して居ります。

『この時局解決の道程として、第三國に對する態度を一變し、我方より積極的に彼の蔣介石援助に斷乎たる抗議を申込むことであります。古人の言に「王を射んとせば先づ馬を射よ」と言ふてあります通り、蔣介石を射んとせば、彼を背に乗せて居る英國を先づ射るのが必要と思はれます。さればと言つて、鐵砲を打ち掛けると言ふ意味ではありません。それは戦争以外の我活動の力で押し切ると言ふ意味であります。』

と、かく斷言して申上げたのであります。どうか、私の言ふ『力で押し切る』といふ意味を、よくよく玩味していただきたい。



其後、天津租界問題が起りまして、全國的に反英、排英の輿論が勃發し各都市は勿論、各町村に至るまで大集會が行はれ、その勢は燎原の火の如き有様でありましたことは、皆さんも御承知の通りであります。政府當局者は國民の意思感情の眞底に、この大潮流が流れて居ると言ふことを、よく注意して居らぬと、悔ひても及ばざる大不覺を取るの虞があると申して置かうと思ひます。

### 一三、事變解決の一新面目

我國の外交が、支那事變解決を唯一の方針として邁進する以上は、第三國に對して、徹底的に我國の對支方針、所謂東亞新秩序の建設の意義等に就てよく説明して、その諒解賛同を求め、若し幸に我方針に賛成するものは、之を友邦として提携することにしなければなりません。その賛成とは單に表面のお世辭

ばかりでなく、眞に衷心より賛成して、支那に於ける我行動を援助し、蔣介石撲滅に努力するだけの誠意のあるものであらねばなりません。政府當局が、いよ／＼この決心覺悟を以て、第三國の大公使等と談判したら、各國の意思も明瞭となりますし、こゝに我國は從來の行き掛りやら、感情やらを全然洗ひ去り平沼さんの所謂白紙に還つて、その白紙の上に新しき文字を黒々と認め、我味方の友邦とは親密の交際を結び、我と反對の行動を、直接間接に執るものを敵として邁進すれば、支那事變解決に一新面目を取ることは、必然であります。

### 一四、新政權樹立後の急務

次に、支那事變解決の重大問題は、中央新政權樹立のことであります。傳聞するところによりますと、當局者の方々が、種々苦心の結果、唯今大にその計



畫が進捗したとのことでありますから、その傳聞に信頼して、ここにはその意見を發表せぬことに致します。

たゞ私が一言致して置きますことは、新政府樹立後に、新政權直屬の支那軍隊を編成し、日本士官の指揮監督の下に訓練を行ひ、この軍隊を以て共產軍及び匪賊の討伐等をなさしめ、日本軍駐屯の數を、ある程度まで漸次減少するの準備をなすことが、急務中の急務だと思ひます。そしてこの軍隊の統帥者に適當の人物を物色し、今尙ほ山東、山西其他各方面に出沒し所謂ゲリラ戦とかをやつて居る支那軍を招きよせ、之を味方として使役するぐらゐの支那式のことも、その人さへ得れば出來さうなものだと思ひます。

尙、當然直ちに着手すべきことは、租借地の處分問題であります。阿部新内閣は、必ずこの問題の處理解決に邁進するものと信じますが、英國の東京談判

再開のゼスチュアに氣をよくし、又々引きすられて、後で後悔をせぬやう、豫め腹帯をしつかり締めてもらひたいものであります。

### 一五、行政機構の病根

私はこの際、姑く話を轉じて内政改革問題に觸れて、一言しようと思ひます。新聞紙の傳ふるところによりますと、阿部新内閣に於ては、その政綱の中に行政機構の改革をも取りあげるであらうと傳へられて居ります。併しその改革方針なるものが、單に遞信省と鐵道省とを併合して交通省とし、又農林省と商工省とを併合して産業省とすると言ふが如きことであるとするれば、それは未だ問題の核心に觸れざるものと評さねばなりません。

數年來、内閣制度乃至行政機構の改革が、要求せられて居ります原因は何處



にあるかと申しますれば、之を一言にして言へば、現在の内閣制度の下に於ては、一貫せる基本國策を討議し、決定するに適せぬといふのであります。

然らば、何故に現制では、基本國策の討議に不便があるかと申しますと、今日の閣僚は總べて各省大臣を兼ねて居る。しかも各省事務は益々複雑多岐に亘るため、その注意し、傾倒するところは、所管の行政事務に限られ政治の大局に着眼する餘裕がなく、各省の立場のみを代表する、これが現制度の病根であります。

故に、行政機構改革の目標は、各省の行政事務に煩はされざる少數の國務大臣を以て、政治の中樞とするところにあります。尤も、陸・海軍、外務、大藏の如きは、矢張り國務大臣に於て兼ねるを可と致します。之等の國務大臣と首相及び無任所相を加へた五名乃至七名のものを以て、政治の中樞を把握する以

上之に隸屬する各省の事務大臣（又は各省長官）は、必ずしも之を減するに及びません。従つて、省の併合の如きは、必要事ではないのであります。現に貿易省の如きを新設する要求もあらうし、又現時の興亞院の如きも、事變の進展に伴ひ、一省としなければなるまい。又、眞に東亞新秩序の建設に着手する以上は、眼前の軍事的行動の必要ばかりではなく、東西文化又は、思想融和の上からも、宣傳省か情報省の必要も生ずるのではなからうか。要するに、國力の増進、行政事務の増加に伴ひ、省の増加するのは當然であつて、強ひて之を壓縮するには及ばないのであります。今若し、單純に省の廢合のみを以て、行政機構改革の目標とするならば、それは甚だ不徹底なる改革であつて、恐らく數年ならずして、又元の通りに還元せられるであらうと思ひます。

之を要するに、行政機構の改革の如き、内政革新政策も必要でありますが、



何よりも急務なるは支那問題の解決であります。殊に歐洲に戦亂が勃發しまし  
ては、尙一層その解決の急務を深く痛感するのであります。恐らく國民諸君も、  
行政機構改革の如きは、第二、第三の問題だ、之を後廻しにしてもよい、まづ  
／＼支那事變の解決に邁進せよ、と註文せらるゝことであらうと思ひます。

一六、袋の鼠となる勿れ

さて、この際、支那事變解決のために、第三國と談判を開始せんとするに當  
り、日本が歐洲戦亂の機會に乗じて、火事場泥棒をやると思はれてはよろしく  
ない、須らく慎重にせねばならぬ、と言ふやうな極く穩和な、姑息な、因循な  
考へが、當局者を支配することを、私は掛念するのであります。若しも私の掛  
念が、事實なりとせば、事變處理に邁進するどころか、却つて退歩するであり

ませう。

元來、支那問題として解決せらるべき各種の問題は、事變勃發以來の懸案で  
あつて、一朝一夕に起つた問題ではありません。歐洲戦争が起らうが、起るま  
いが、我國としては是非解決せねばならぬ問題であり、爛頭焦眉の急を要する  
問題であります。決して餘計な氣兼ねをして、逡巡躊躇するには及ばぬことであ  
ります。自主獨往で進むと言ふことは、何處にも程よくして、あたりさわりの  
ないやうにして、その日暮らして行くことではありません。それで、自主獨往  
とは、往々臆病者の遁辭となる虞があります。列國競争の熾烈なる今日、世界  
の大勢は右するか左するか、そのいづれかを選んで決心しなければならぬやう  
な境遇に逢着することもあります。そのいづれとも、接近せず、握手せず、躊  
躇逡巡、空しく機會を逸して、遂にはどちらからも見離され、全く孤立獨行の



極、袋の鼠となることもありませぬ。大に注意反省を要します。

一七、大膽果敢に行動せよ

抑も東亞新秩序の建設と、支那の殖民地化を防止すると言ふ主張は、我日の丸の國旗と共に、百尺竿頭に高く掲げられたる我旗印であります。この際、我國は從來の行き掛りや感情などを全然洗ひ去つて、この旗印を押し立て、世界列強に對し聲高らかに呼びかけ、この旗印の下に集り來つて、眞に我國と握手し、東亞に於ける我國の動向と賛同助力せんと言明する者は味方であり、賛同せぬまでも中立を嚴守して、絶対に蔣介石援助をなさざるものは、純眞の中立者であり、表面中立を標榜しながら、蔭に裏面で蔣介石援助の行動をなすものは敵である、と言ふことを明瞭にして、帝國外交政策の根本方針を確立せぬ

ばなりません。而してこの根本方針によつて、千變萬化の國際政局に應酬し、大膽果敢に行動することが緊要であります。

諸君、我々大和民族の將來は、洋々乎としてその勢力はたしかに、世界を動かす偉大なものがあります。諸君、我日本帝國は、萬世一系の皇室を戴き、世界無比の勇敢なる、陸、海、空の三軍を有する神國として、天佑ある國家であります。ここに諸君の御自重御自愛を祈つて、この講演を終わります。

……………附記……………

叙上の講演を聽いて、中外産業調査會の松下傳吉氏は、一億國民に知悉せしむるの要ありとして、自らパンフレットを刊行され、その「あとがき」に於て左の如き感想を述べられて居る。



これまで随分知名の人の時局講演を聞いたが、去る九月十一日J O A Kから放送された安達さんの「國際情勢と日本の地位」と言ふ講演ほど、私の心魂を湧きたせられたものはない。一時全く私はラヂオの前に釘づけにされてしまった。無論安達さんはしゃべることが下手ではない、併し、上手にしゃべると言ふなら、安達さんよりも達者な講演は幾人も聞いて居る。當夜私をラヂオの前に釘づけにしたのは決して安達さんの辯舌の技巧ではない、それはラヂオを通して慟々私達に迫つて來る安達さんの老を知らざる烈々たる憂國の情熱から迸り出る力強い一言一句だ。いづれも言外に意を含めた言葉ではあつたが、幾度私は心の中で感激の喝采を送つたらう、恐らく當夜の聴衆者の中には、私と同じく胸を轟かしたのも少くなかつたに違ひない。

私はこの講演をこのまゝ一夜の感激のうちに聞き流してしまふことは、いかにも惜しいと言ふよりは、寧ろ之を一億國民の腦裏に深く打ちこんで置かなくてはならぬと感じた云云。

## 紀元二千六百年所感

本文は昭和十五年二月十六日午後八時より、紀元二千六百年奉祝特輯放送として、東京中央放送局を通じて全國に中繼せられ、越えて同月十八日午前十時より「週間を顧りみて」に特に録音再放送せられ、朝野に深甚なる感動と感銘とを投げ與へたる講演速記にして、爾來全國各地より感激溢ふる、讚辭が多數殺到したるものである。(編者識す)



## 一、我が民族の發展と帝國の遠き將來を想ふ

皇紀二千六百年を記念し、祝賀する爲めには、去る一月一日以來各方面の有力なる方々から、新聞雜誌に於て、又ラヂオを通じて、我國體の淵源由來やら、神武天皇御東征の御苦辛やら、其後の我國の發達の歴史等に就て種々の意見を拜見し、又拜聽する事を得まして大いに満足して居りますから、私は茲には過去に屬することは一切申上げず、寧ろアベコベに將來即ち今後の二千六百年即ち五千二百年後には我が國は如何になるだらうかと云ふことを考へて居りますと先づ申上げます。而して天壤無窮、萬世一系の此の尊き國體と皇室とを擁護し奉るには、今後二千六百年間の基をなす今月今日如何なる事を爲すべきかと云ふことが、我々に課せられたる大問題、大任務であると思ひます。

右約言致しましたる信念の下に於て、今日の國際政局及び日支事變處理に就き、數ヶ條の意見を短時間に具體的に述べて見ようと思ひます。

## 二、海洋立國北進南進

第一、我々大和民族は北進又南進の運命を有して居りまして、此運命を完うするには海洋即ち『海』を以て立國の基礎とせなければならぬと云ふ事が、私多年の宿論でありまして、之を要するに支那、滿洲、蒙古、西比利亞方面の大陸に發展するには、先づ支那海及び日本海を安全ならしめねばなりません。海洋安全の保證が出来ねば、大陸發展は全く問題になりません。そこで今後將來の發展を豫想致しますれば、支那の北中南支に於て我民族の發展は云ふ迄もなく、蘇聯即ち西比利亞地方にも、我民族は必ず發展せねばなりません。私は蘇



聯現在の國狀は、將來は一變して、彼の政治機構も變革し、國交は調整せられて、交通は自由になるものと信じます。

而して西比利亞の開發、即ち彼の地の森林、礦物等の開發々掘の鍵は、神が我が大和民族に與へて居ると思つて居ります。而して日本海は其名の通り眞の日本海として其の航海は隅田川の交通の安全と同様になることが理想であります。そこで我が民族の發展は、北方は西比利亞に到り、夫と同時に南方であります。南方の進出には支那の海南島は、我が民族發展の途中の根據地として、足溜りとして、目指す所は蘭領印度諸島になります。此方面にも平和的に大發展の餘地が十二分にありまして、土地の面積は宏大にして、海上の交通は至極便利で、氣候も日本人に適し、礦物あり、石油あり、森林あり、耕作にも適して居りますから、和蘭政府が之を開放さへすれば、我が同胞は政府の勧誘を

も獎勵をも待たず、一錢の補助もなくして、彼の地に移住する事は必然であります。數年前迄は、此の蘭領進出論を爲せば和蘭が神經をトガラすとして、我政府當局は遠慮勝でありましたが、最近は當局の外務大臣やら、拓務大臣などが之を口外し談論せられ、南洋局とか南洋課とかの新設の計畫あることは全く輿論の結果にして、たしかに一進歩であります。處がシツカリ覺悟をきめて和蘭政府に談判を開始するに非ざれば、彼は良い加減にあしらつて、我國の希望は容易に容れません。而して此の談判にも和蘭政府の後ろから尻押をするものがあります。夫れは英國にあらざれば、米國であります。此後方からの尻押干渉を排斥するの勇氣と決心とが最も必要であります。

私は五千二百年後を想像し、二千六百年の記念事業として、此方面に力を致して多年の宿望を達し度いと考へて居ります。



## 三、我國眞の姿を紹介

第二には、宣傳省設置の問題であります。

東西思想の調和、風俗習慣等の相互の了解が必要にして、即ち日本は如何なる國柄であるかと云ふことを徹底的に歐米諸國に紹介し、世界の各方面に我國の眞の姿を了解せしむることあります。此の問題解決は容易の事ではありません。元來個人主義で組み建てられた歐米の國家組織と、家族主義で固まつて居る我が國家とは、諸般の風俗習慣の相違は當然であります。即ち父母兄弟團欒の我が日本家庭と、父母兄弟會食しても、各其の仕拂ひの割前を出すと云ふ習慣の所とは、萬事誤解行違ひのあるのが當然であります。然らばどうして我が國の眞の姿を世界に紹介するかと申しますれば、先づ其の機關として宣傳省

と申しても情報省と申しても宜しい、一つの機關を設け、茲に文學、美術、宗教其他専門の知識を集め、又歐米の有力なる學者をも或場合には雇ひ入れ、而して世界的出版物も、映畫も、觀光事業も、世界的ラヂオ、通信、新聞、雜誌事業等の監督をも爲し、又世界に巡廻講演を爲す計畫をたて、其の巡廻講演には、皇道精神を能く了解し、而して英佛獨等の語に堪能なる學者、宗教家（佛敎家も宜しいが基督教の牧師の方も大いに宜しい）兎に角日本帝國の國體、歴史、風俗、習慣をば世界に紹介するに適當なる人々を簡拔して之を各國に派遣し、あらゆる手段方法を以て日本帝國を紹介し、各國民をして日本を研究し、日本を禮讚する風潮を作り出すことあります。

此の大事業は目前の事變處理に用立つるのみの計畫にあらずして、今後幾年かを期して、其の目的を完遂せしめねばならぬ事業であります。而して歐米各



國が日本を研究したいと云ふ風潮を起しましたら、其の時は占めたもので、我國の眞の姿が知れ渡りましても種々の誤解を一掃せらるゝだらうと思ひます。即ち我々日本人は民族として機敏勇敢なるも、決して好戦國民ではない。平和を愛好して、殘忍、冷酷の民族性を有する者ではない事が判明しますれば、日支事變の聖戰なる所以も、八紘一宇の高遠なる理想も、東亞新秩序の建設の理由も、始めて了解するに至るかと思はれます。右様の次第で、私は宣傳省の新設こそ二千六百年の記念事業の一として作り度いものであります。

#### 四、九ヶ國條約廢棄通告

第三には九ヶ國條約の無効廢棄の通告であります。私共は先年來、九ヶ國條約の無効廢棄を首唱し、輿論も之に共鳴して居りますけれども、歴代の當局者

は未だ之を決行し得ずして、空しく推移して居るのが現状であります。而して英米各國が日本の對支政策に不平不滿の基礎を九ヶ國條約に置いてゐることは明瞭であります。ソコで何と云つても九ヶ國條約が私共平生の主張通り、支那問題解決の痛であります。此際思ひ切つて速かに此痛を切解し治療し置かねば、後日千恨萬悔する事ありと懸念せられます。依つて今日の此の好機會に於いて、之を斷然決行する事が最も緊要なる措置と信じます。今日は慎重に考慮する時機ではありません。斷じて之を行ふの時機であります。最近米國の蔣介石援助は益々露骨となりて、彼の借款クレジット設定の如き其の顯著なるものであります。彼の歐洲動亂に機會あらば、之を仲裁せんとして其の濫踏みに國務次官を派遣し、出來得るならば英獨の戰爭を中止せしめ、而して英米の力を併せて、日本が東洋に伸びんとする勢力を壓迫したいと云ふ事が米國の東洋政策であり



英國の又最も冀望する所であると推斷せられます。日本は此の政策の裏を搔かねばならぬ。茲に外交の大手腕を要するのであります。自主獨往の美名の許に、其の日暮しの外交ほど危険なことはありません。

#### 五、支那交通機關の整備

第四には、支那に於ける新政權樹立に對する意見の一斑であります。現政府が熱心に支持し、盡力し居らるゝ支那中央政權の樹立は至極結構であります。衷心から熱心に其の強力なる新政權の一日も速かに確定せんことを祈りて居りますが、夫れと同時に私は註文があります。夫れは彼の支那の擴大なる土地を小さくすること、即ち縮小するとは鐵道、道路の改良、新設を斷行することでありませぬ。例へば北京、天津より、黄河河岸に達する數條の大道路の如き、最

も必要と思ひます。或は電信、電話、ラヂオの設備を完成し、要所々々に飛行場の設置を爲すこと等で、之を要するに交通諸機關の設備を爲し、少くとも北支の如き、内地同様の感あらしむる位に整備せば治安は保證せられ、各種産業の發達は基礎づけられ、一朝匪賊、亂民蜂起の場合は、飛行機、或は機械化部隊にて緩急相應じ、即時に之を鎮壓撃滅することが出来る様にならねばならぬことと思ひます。右様の設備を完了し置けば、新政權の成立に萬一にも如何なる變化ありましても毫も差支へなく、其の變に應じて日支の親善提携は依然として何時でも行はるゝ基礎が出来て居る事となります。世間では新政權が成立すれば、直に撤兵が出来得る様に思ふ者もありますが、それは誤解で、東亞新秩序の建設には、武備機關の整備が何よりも必要であることを一層認識せなければなりません。尤も長く出征して居らるゝ兵隊さんと、新らしき兵隊さんと



交代して歸還せらるゝ事は、即ち新舊兵隊さんの交代は國民一般の希望する所にして、當局者の深く注意を拂はれて、公平に行はれてゐる事と信じます。

### 六、機に臨む最後の斷

最後に私は今日の事變處理に就きまして色々感ずる事がありますが、元來我々日本人は外交の駆け引に於ても、其他の場合に於ても、十のものを十、百のものを百丈け活かして用うる事をせぬ、頗る消極的に遠慮勝ちの所がある様であります。世間の譬へ話に、下手の將棋差しが上手の名人に對して散々敗北しました、其の下手の人が負けた後で、左の手を開いて見ますと、有力なる駒をば使用せずに、堅く握り詰めて居り、手のひらを開けたら、握り詰めた駒からホヤ／＼とホケが立つたと申す事があります。我が國際關係には往々此の

將棋差しの感があります。尤も、此の態度は外交官のみならず軍人も、政治家も、實業家も、此の態度を執るもの多く、斯くお話しする私の如きも、其の中に數へられる一人で、寧ろ日本國民性の一部の現はれではないかと思ひます。

回顧しますれば今を距る四十六年前、日清戦争の當時我が國の海軍は頗る微弱で、僅かに四千噸の松島艦を旗艦として居りますのに、支那の北洋艦隊は、定遠、鎮遠と云ふ各々八千噸の戦闘艦二隻を主力として、威風堂々支那海を壓するの威勢がありました、日本艦隊は開戦以來、朝鮮の鎮南浦附近、長直路と云ふ島に隠れて一向動きません。其處で種々協議の結果、樺山海軍大臣が自ら其根據地に出張して實地を視察し、激勵する事になりました、樺山大臣は商船山城丸に乗り込み、根據地に赴き伊東司令長官初め暮僚を集め、鹿兒島辯で大いに激勵せられました。而して彌舩相銜みて海洋に出動しましたが、恰も好



し支那の北洋艦隊に出逢ひ、茲に黄海の大海戦が始まりまして、大勝利を博するに至りましたのであります。丁度其の頃は、私の年三十一歳、壯年時代の事であります。若しも現在に於いて敵國の大艦隊が、太平洋に現はれたと假定しました、現在の我が海軍の態度は、決して先きの譬への、下手の將棋差してはありません。茲に彌<sup>いよいよ</sup>最後の決心をなしたら、我が海軍は先づ大爆撃機で、平生訓練の一機一艦主義を實行するだらうし、數萬噸の敵の戦艦は、一機一發で沈むものもありません。又沈まぬまでも其の進退の自由を喪ふであります。又敵の航空母艦も攻撃の第一の標的となつて居りまして、此の方も一機一艦、大爆撃が其機關要部に命中するや、太平洋上に渦を捲き起してブク／＼泡を立て、海底に次ぎから次ぎと沈むであります。之は單に空軍の活躍を形容したるものであります。世界に誇る潜航艇の活動に至りては、更に一層目醒しき

ものがあるだらう。日支事變以來、空軍其他の活動は世人の耳目に映するも、潜航艇は未だ其の實力を發揮する機會なく、日夜脾肉の嘆に堪へざる時、千載一遇の機會到來せば、潜艦乗り組みの將士の活躍は、世界の耳目を聳動し、驚かすものある事を確信致して居ります。

### 七、結 語

私は皇紀二千六百年を記念して事變處理に思ひを致し、妄想は妄想を産みまして茲に七十七歳の老齡にも拘らず、血湧き肉躍るの感に堪へませんと申して此の講演を終ります。



# 國際政局に對する所感

本文は、滿洲國皇帝御來朝の當日たる昭和十五年六月二十六日午後七時四十分より三十分間に亘りて、東京中央放送局より、全國に中繼放送せられたる警世的大演説である。(編者識す)



一、歐洲情勢認識の是正

現在の歐洲の戦亂は全く有史以來未曾有の出來事にして、其大勢の進展は日々夜々刻々に變化して、世界の人々を啞然たらしめつゝあります。此の際私は東洋より此大動亂を眺め、而して其東洋の各方面に波及する影響を考慮し、混々湧き出る所感の一斑を述べまして、諸君の御參考に資したいと思ひます。

却説今を距る二十五年前、歐洲戦争に際して、我國が參戰するかせぬかを決する場合に、時の外務大臣加藤さんが、參戰に決したる意見を約言致しますれば、堅忍持久は英國國民の最も長所であるから、聯合軍が連戰連敗してドーバー海峡に押し詰められても斷じて媾和はせぬ、最後の勝利を占むる迄戦争を繼續すると云ふことでありまして、加藤さんの此の觀察は二十五年前は全く當りま

したが、二十五年後の今日歐洲の小國は殆んど獨逸に蹂躪せられ、強大を以て誇りし佛國すら無條件降服の運命に陥り、獨逸は佛國を片付けたる上にて、陸海空の全勢力を集結して英國本土侵入の作戰を計畫し、英國政府は逃れて何處かに移轉するものと悲觀しながら、尙ほ二十五年前同様最後の勝利は英國だと斷定し、英國が優勢なる海軍を擁して依然海上を制壓して居るから、結局は獨逸が負かざるだらうと云ふ意見が我が國朝野の一部にある様であります。元來持久戦になれば獨逸が食料其他物資の缺乏の爲めに屈服するだらうと考へたら大なる間違にて、今回は獨逸が歐洲の小國にして各種の原料地とも云ふべき地方を先づ悉く其の掌中に收め居る以上は、食料の不足の憂なきのみならず鐵、石油其他の物資も缺乏することなく、長期戦に充分堪え得るものと思はれます。且つ英國海軍の優勢力も大艦巨砲も、獨逸の空軍、潜水艦、機械水雷等に對し



て全く恐怖して縮みあがりて、其所在地さへも暗まして逃げ隠れせなければならぬ情態でありまして、昔の戦闘艦と巡洋艦とのみを以て海上を横行し制壓したる時代とは全く趣を異にするに至つて居ります。斯かる状態にて政府が倫敦市を引拂ひて、何處かに逃亡移轉することになれば、一般殖民地に對する威令も行はれず、印度の如きも例へ完全に獨立する丈の民族の力なきも、内部の混亂は名狀すべからざるものありと思はれます。随つて東洋方面に於ける勢力の減退は云ふ迄もありません。斯る大勢は遠からざる内に到來するが當然にて、此の有史以來未曾有の時に當りて、尙ほ行き懸りに捕はれて、往年の夢末だ醒めずして、認識を是正するの元氣なき事は寔に残念に堪えぬ次第であります。元來アングロサクソン民族の特長は鈍重にして輕舉妄動せず、變に處して能く熟慮し、而して後に動くの氣風ある民族性にして、從來は此の鈍重なる民族性

が英國人を成功せしめて居りましたが、今日の科學の進歩は、機敏にして勇敢なる民族性に最も相應しくして、例へ鈍重にして忍耐力ありても、機械の進歩に遅れたら惨敗を招くことが明瞭となりました。ソコで、チャーチル英國首相が、過日下院に於ての演説に、『假令この英本土の大部分が獨軍に蹂躪される處となることあらんも、英帝國は飽迄も武器を執つて、舊世界の自由解放と、救済との爲めの新らしき世界が發足するに至る迄、戦闘を繼續するであらう』と、悲痛の演説を爲して、チャーチル首相既に英本土の占領せらるゝを豫想して居る様な次第だから、英國政府が加奈陀逃亡の噂さあるのも當然であります。

## 二、獨逸の對英策戦は勝敗の分岐點

就ては獨逸の對英作戦こそ全く今回大戦の決勝戦にして、獨逸が作戦準備整



頓次第に直に英本土の上陸を策するか、或は上陸作戰を當分延期して、其前に優勢なる大空軍を以て、英國の各都市即ち倫敦を初め各工業地及各港灣等の要地を、徹底的に連日連夜大爆撃を敢行するではなからうか。然る時は英國民は神經衰弱に罹り、堅忍持久の傳統的精神なども喪失して、大に戰意を滅殺するであらう。而して後英國海軍必死の防戦に抵抗し、空軍及び潜水艦及び驅逐艦、機械水雷等を以て、萬難を排して陸軍輸送の海路を開拓して、上陸作戰に成功したら、倫敦包圍の大會戦は違算なく進行するものと思はれます。斯くなる時は英國政府は何處に移轉するか。或はスコットランド地方か、或は汽船に投じて加奈陀に逃亡するか、茲には一大疑問として置きませう。

### 三、米國の露骨なる反日態度

次には米國の態度であります。米國が日本に對して滿洲國獨立以來反抗の態度を執りしことは顯著な事實であります。殊に今回の日支事變勃發以來、一日と露骨になつて來ました事は、我我日本國民の齊しく認むる所であります。米國が從來の態度を一變して、何故に我國を敵視し、或は通商航海條約を廢棄し、或は工作機械の輸出禁止を爲さんとして、我國を苦しめんとするかと云ふことを論議しますると、彼は東洋に於て日本の勃興するのを掛念し、恐怖し、若し今日の儘に經過せば支那は勿論、東洋全體が日本に支配され、米國も英國も既得の權益所るか、將來全く何等の權益をも獲得することは不可能となるであらうと。此の恐怖心は英國と結托して蔣介石援助となりて居りましたが、歐洲戰爭勃發して英國が支那援助に手を出すの力なきに至りましてからは、米國は單獨に援蔣手段を講じて、武器やら自動車等を供給するやら、大西洋艦隊を



太平洋に廻すやらして居りますが、唯だ此際我國に於ける日米親善論者の爲めに、一言して置くの要ありと思ふ事があります。

#### 四、日米親善論の種々相

元來日米親善論者に二派あります。第一は彼の地に於て學問を爲し、又た長い年月の間彼の國の多くの人々と交際して、米國流の人情風俗習慣等に通曉して居られる人々でありまして、其人々の中には米國の反日の思想輿論は、或る機會には一變せられるものであると、殊に感情の強い米國人、特に婦人の大勢力を有する米國であるから、今日の此の反日輿論を轉換することも難事に非らずと云ふ論者であります。此論者には米國の政治家が一時の感情の刺戟に非らずして、長計大策の上より我日本の勃興に對し、數年前來格段の警戒と恐怖の

念を高め居ることを、特に認識して貰ひ度いのであります。第二の日米親善論は、物資依存の現状からであります。石油でも屑鐵でも其他の機械類でも皆米國に仰がねばならぬ。夫で飽迄彼の國と親密の交際を續ける事が最も必要であらうと云ふに在ります。此の第二の論者の意見は尤もなこともあります。併しソレが程度の問題でありまして、こちらから交際を破らうとは思はぬけれども、向ふから絶交的態度を執り來る場合は、我方も之に對應する覺悟を爲さなければならぬことは當然であります。米國の新聞雜誌には公然日本を屈服せしむるには、石油を賣らぬことが何事よりも捷徑だ（早や途だ）石油さえ供給せなければ日本の活躍は必ず停止せらるゝものである、日本は屹度ヘタバルのだと、傲語して居る様な次第であります。



### 五、米國に我國最後決心を示せ

尤も米國にも日米親善論者も段々居ります。歐洲戦争が英佛大敗北の状態を呈しましてからは、日米親善論に豹變したる雜誌評論家等もあり、政治家もある様でありますけれども、斯る親善論などに迷はされず、我國が眞に覺悟して『サーコイ』と起ち上りましたら、彼は斷じて戦争を仕掛ける決心はありません。何となれば若しも米國艦隊が太平洋上にノソノソ現はれたと假定して御覽なさい。我が潜水艦や驅逐艦の活躍と空軍の奮闘とによりまして、米國の軍艦は數時間にして撃沈又は大破損して仕舞ふだらうと思ひます。米國海軍の専門家も此の位の事は疾くと承知して居りますから、太平洋に大艦隊を集結して日本國包圍の陣形を造りて、大演習を爲すやら、布哇眞珠灣に碇泊して我國を睨

むやら、其恫喝的態度を執りつゝありまするけれ共、本統に我國と決戰の勇氣なきことは明瞭であります。殊に最近英佛の脆く慘敗したることは、米國は極度に失望落膽しまして、彼の太平洋大艦隊を布哇に碇泊せしめて居るのは、日本國恫喝が一變して、寧ろ日本監視の態度を裝ふて、歐洲參戰を避くるの魂膽なりと評しても宜布よろしいかと思はれます。夫で我國が最後の決心をなして、彼に堂々談判する覺悟を爲しましたなら、我國に必要な物資をも敢て輸出禁止することもなく、寛大なる通商貿易が成立するものと思はれる次第であります。我が日本國は國際關係に恫喝などを爲す必要はありません。唯だ決心決意を示せばソレで澤山と思はれます。

### 六、蘭印資源は日本に對する大自然の賦與



次には蘭領印度支那及び佛領印度支那の問題であります、和蘭が獨逸に蹂躪せらるる所となり、國王及び政府が英國に逃亡移轉しました後に、其殖民地たる蘭印問題に就き、我が政府が現状維持を聲明し、和蘭逃亡政府は勿論英國も米國も此の聲明に賛同し居ることが表面の現状であります。元來本國が敵の戰車に踏みニジラレ、空軍に破壊せられたるに、只だ殖民地が遠方に在る爲無事なるを得て居りますが、其殖民地の附近に在りて、最も利害關係ある我國が、此の際蘭領殖民地に對して何等手を出すことはない、飽迄現状維持で行くから皆さん御安心なさいと、此のお人良しの正直なる挨拶の聲明を聞いては、和蘭政府は勿論、英米とも皆安心をなすことは當然であります。然るに其當時の新聞によりますると、一方には日本の現状維持に賛成しながら、他方では英佛の軍人は背廣の服を着けてドシ／＼入り込んで居るとか、又た彼の地の特産たる

錫やゴムや石油などは、英國と米國とで山分けして居るとの事があります。私は新聞記事を悉く信するものではないけれ共、常識の判斷にて之れが事實であらうと思ふて居ります。抑も人間の生活に必需品たるゴムや石油を、人口増殖の最も旺盛なる日本帝國の鼻の先に、大自然が、即ち神が作り置きしことは、其増殖する人口の使用に供したるものに相違はありません。然るに之を人文未だ開けざる時代に、和蘭が領有して今日に至りたるものでありますから、現在日本人に必要なゴム、錫、石油等を、相當價格を以て日本に提供するが自然の道理であります。況んや、米國が我國に對して若しも石油其他の輸出を制限するか、或は中止する様な事があつたら、猶更蘭印地方より之を補充するが當然の事でありませぬ。若し之を許可せぬなら其時こそは、第二の手段を執る様にせなければならぬと、強硬に本腰を据えて蘭印の當局者に談判を開始し、併せ



て米國と英國とにも此旨公々然と通告して、彼の地の石油及び必需品を購入することに最大の努力を爲すことが最も緊要緊切なる事であります。右様の態度を我國が執つた場合に、米國が如何なる行動をなすか、彼れはボルネオ石油の爲め、日本帝國と戦争を開始しようと思つて居るものに非ざることとは明瞭であります。ソコデで帝國が深く決心する所ありて、此問題を捉へて公々然と堂々たる談判を始めましたなら、ボルネオ石油の多量輸入は勿論、或は米國の石油も今日よりもモットより多く取り得る様な途が却つて開きはせぬかと想像するものであります。要は我國の決心一つであります、腹一つであります。又佛領印度支那が蔣介石援助の輸血路であることは公知の事實でありまして、是迄我國は佛蘭西本國政府に對しても、日本駐在の佛國大使に對しても、ハノイ駐在の佛國代表者に對しても、幾度も幾度も談判、警告、注意を爲しましても、

毎度言を左右に托して聞き入れず今日迄推し移りたものでありまして、佛國が獨伊に降服したる時、ヤット之に手を附け得る事は、獨伊に對し胸中忸怩たるの感なきにしもあらずと申して宜布よろしいかと思はれまするけれども、援蔣ルートよきを絶ち切ることの必要は云ふ迄もありません、一日も速かに機宜の措置を執らねばなりません。

### 七、獨逸に長期戦の覺悟あり

私は此際私のお話を一轉して、英獨の戦争の終局の見透しに就いて一言して見やうと思ひます。

誰も英國は持久戦の覺悟を爲し、獨逸は即戦即決主義で此の戦争を早く解決させ度いと思ふて急いで居ると申して居ります。併し私は穴勝ちソー許りとは



思ひませぬ。元來戰爭なるものはイヅレの場合でも、即戰即決が原則でなければなりません。英國が多年の習慣より此の原則を蔑視して、平生其準備を怠つて居りし爲め今度の不覺を取りたのであります。所が獨逸でも英國民の氣質を十分承知して居るからには、一度戰爭を始めた以上は、如何に戦に負けても容易に屈服する民族にあらざることとは能く知り抜いて居ります。其處で獨逸は歐洲の大部分を支配して、食料其他の物資は缺乏を告げませぬから、シツカリ腹帶をしめて長期戰の覺悟をも爲すものと思はれます。

#### 八、獨逸は英國を生殺しにせず

而して問題は媾和談判の事であります。前回の歐洲戰爭の終局、媾和談判の際、佛國の代表者クレマンソーの如きは獨逸をして再び起つ能はざる様に處分

したいと、種々深刻なる案を提出したるものを、斯くすれば佛蘭西が餘りに強大になり過ぎると云ふ、英國の代表者の意見にて、佛國を抑へて獨逸の處分を比較的寛大にしたのであります。所謂蛇を生殺ろしにして置いたのであります。是れが獨逸が二十有餘年間に再興、否再興所か、今日の大勝利を博する基礎を作り、準備を爲すことを得た原因であります。獨逸人は此の事情を能く承知し、英國人も亦た最も遺憾とする所でありますから、今回の戰爭にて獨逸が彌々大勝利を博したとすれば、英國本土を徹底的に處分して、アングロサクソン民族は彼の土地にて再び起ち上ることの出来ない様に爲すのではなからうか、即ち蛇を生殺しにして置かぬと思ひます。是が加奈陀移轉の説やら、百年戰爭の噂さある所以であります。又世間では媾和會議の場合云々と考へて居る人もある様でありますが、之は前回大戰後のヴェルサイユ媾和會議を聯想した



も常識の考へ方で、私は今回の戦争の終局は、各國會同の所謂媾和會議等を開かず、戦勝者たる獨伊兩國が、腹を合せて戦敗國を個別的に談判し片附けるだらうと思ひます。要するに目下私等の眼前に展開されつゝある此の世界列強の有様は、全く有史以來未曾有の出来事でありまして、從來の常識では判断出来ません。

### 九、方向轉換の要

斯る國際狀勢であるからには、我國の外交當局者も、金融業者も、貿易業者も、急角度に方向を轉換する決心をせなければならぬ時勢であります。若し方向轉換が出来なければ落伍者とならねばなりません。從來の自由主義や、個人主義の學問の理論も、世界の太勢に押し流されて仕舞ふの感があります。個人

の落伍は自業自得で仕方がないとしましても、其の爲め若し國家が落伍しましたら大變です。當局者の猛省一番を要する時であります。

就ては此際支那問題をお話の順序として申上げねばなりません。今日私の意見を卒直にお話することは少しく早過ぎますから、差し控える事に致します。只だ毎日ラジオ及び新聞によりて戦況報告に接し、陸海空將兵の方々が日夜絶大の努力を爲され、非常の戦果を收めつゝある其勞苦に對して、滿腔の敬意と感謝の念を捧げつゝあります。而して支那問題の前途を飽く迄樂觀し有望視して、決して急いで急がず、所謂アセラズして能く急所を押えてガン行き度いと一言して置きます。

### 一〇、眞の舉國一致の實現



茲に將さに講演を終らんとする最後に、眼を轉じて内政革新の諸問題を點檢致しますれば、統制經濟の再檢討、或は生産擴充問題、資材の外國依存打開問題、或は物價問題、米穀問題、肥料問題、或は議員選舉法、或は官吏任用令の改正等、雜然紛然として茲に明敏勇斷の手腕ある德望家の出現を待望するかの感あります。就中政黨の革新は大政の奔馳する所、最早底止する所を知らざる情勢であります。此際徒らに小策を弄して舊態を維持せんとするも、斷じて出來得る事ではありません。宜しく歴史、行掛り、感情等を打ち忘れ、而して軍人も官吏も實業家も學者も政黨員も皆渾然融和、一體となりて、茲に初めて舉國一致の實現が出來得るものであります。眞の舉國一致が實現すれば、其力は寔とに偉大なるものがありました。物資の不足も憂ふるに足らず、米の不足も其他アラユル物の不足も、自ら緩和せらるゝだらうと思ひます。又外に對して

は亞米利加でも、ソヴィエトでも、況んや蔣介石などでも、此の大和民族の眞の大結合の無限の力あることを認識する時は、我が日本帝國の偉大さが、彼等の眼底に深く映することになりました。此の認識の是正は時局解決に甚大なる効果を齎らすものであります。天下同憂の皆さんに、心を平かにして思ひを致されんことを切望して此の講演を了ります。



………編者附記………

本講演が六月二十六日東京中央放送局より全國五百萬聽取者に中繼放送せらるゝや、放送當夜より翌日、また翌々日と感激と絶讚の辭が、或は電話を通じ、或は文書を以て安達總裁邸や八聖殿に續々と寄せ來れり、其の一を左に紹介すれば

『謹啓先生只今のラヂオ御講演には全く敬服の外無之、滿腔の讚辭と全幅の敬意を表し申し候、先生の御講演は常に大膽に所信を披瀝せられ、而かも具體的なるは天下一品と常に傾聽し居る者に有之候、殊に本夜の御講演は國家危急の際、我國の進むべき唯一の途と奉存候、君國の爲め益々先生の御健闘を祈り上げ申候』  
とあり差出人は静岡市安東居住老犬佐廣瀬英吉の署名あり、其他も此の文書と大同小異なり。

## 國民同盟解散の宣言

本宣言は、昭和十五年七月二十六日國民同盟大會に於て、虚心坦懷、新體制に即應する爲め、國民同盟解散の決議ありたる際、總裁として歴史的挨拶を爲されたるものなり。(編者識す)



(一)

私は、茲に國民同盟の解散を宣せんとするに當りまして、同盟創立以來の活動の跡を尋ね、又私個人が同盟を發企せし來歴の一斑と、一二の意見とを織り交せて、解散の御挨拶と致し度いと思ひます。

(二)

私の舉國一致論の最初の起因は、昭和六年九月十八日滿洲事變の發端、即ち柳條溝一發の銃聲と、其後同月二十一日英國金本位制の停止電報とにより自ら覺醒して、深く決心したるに基いて居ります。何となれば滿洲事變の擴大は當時の常識を以て推斷せられ、英國の金本位停止は、民政黨内閣の政策たる金本

位制維持を打壞すること必然なる故に、此の一大變局に際會したる以上は、非常の決斷を爲し、從來の行掛りや感情を抛擲して、舉國一致の強力なる内閣を造らねばならぬと考へました。此の議は時の内閣に容れられずして、遂に内閣の更迭となり、議會の解散となり、五・一五事件となりまして、昭和七年八月、此の國民同盟が結成せられたのであります。

(三)

而して本同盟は舉國一致の體制が實現する場合には何時でも之を解散することを、結成の當時に聲明し、又我々の革新意見は屢次の決議宣言乃至議會に於ける諸君の代表演説によりて表現せられ、毎に識者よりは多大の共鳴を博して來ました。爾來、内閣は幾度も更迭しましたけれども、孰れの内閣も外交は英



米に追隨し、内政は瀾縫維れ事として、目前を糊塗するのみであつて、何等革新の見るべきものはなかつたのであります。

(四)

内閣の制度を改正して國務大臣と事務大臣（長官）とを區別すべしとの意見は、我同盟組織當時に主張したのであります。この思想は近來漸く革新の一要綱として、其の實現を見んとする形勢を示しました。統制經濟を確立すべしといふことも我々の立憲綱領の一であります。當時世間は其の意味を解する者さへ少く、一種の異端の言説とせられたのであります。近年之が實施を見ざるを得なくなりました。但し、其の實施の衝に當る者の思索の不十分なると、官僚行政の因襲に禍ひせられ、各種の缺陷を露呈して居ります。是が匡救の途

は別に發表する機會もあらうと存じます。當年提唱しました東亞モンロー主義の宣揚、日滿經濟ブロックの完成の思想も、今日は東亞新秩序の理想として、一世の是認する處となりました。顧みて欣快に堪へませぬ。國民體位の向上と衛生事業の普及發達を期するため、保健衛生を管掌する獨立省を設置すべしとすることも、我々の熱心主張した所であります。之は遂に厚生省として實現を見るに至りました。我々が主唱した地方財政調整交付金制度は、其の後配布税として我國地方税制の根幹となつて居ります。

(五)

同盟の名を以てせざるも、私の主張して居る問題の内で、まだ行はれ居らざる二事があります。其の一は徴兵令を改正し、男子滿十八歳を以て適齡として、



現在よりも二ケ年間繰り上げ、若い青年を兵に徴することでありませう。今其の有利なる點を列擧すれば、徴兵に取らるゝ者に花柳病患者を激減せしむること、早く兵役を終へて結婚することが出来る様になり、従つて人口増殖に至大の關係あること、實戦に臨みて未婚青年が最も戰鬥力あること等であります。最後のことは我が現役兵は勿論、少年航空兵の勇敢にして、好成績なることも其一例なるが、支那兵が頑強に抵抗し、前線に戦死したる者に青少年の多きことも其の一例である。又獨逸の落下傘部隊は皆未婚の青少年のみを採用して居るの事であります。元龜天正時代に一番槍の功名手柄を爲した者は皆二十歳未満の青年なりし事と對照して、東西古今、符節を合するが如きものあるを感じて居る次第であります。現陸軍の當局者に速に實行せられんことを切望して置きます。

## (六)

次に情報省と申しませうか、宣傳省と申しませうか、世界に向つて我日本帝國の眞の姿を知らしむる爲めに一大機關を設くることであります。近來八絃一字と云ふ詞が頻りに使用せらるゝは眞に結構でありますが、歐米人には其の意味は判りません。私共は我が民族は四海一家の平和を愛好する國民と思ふて居つても、歐米人の眼中には日本人は好戰國民と映じて居ります。故に世界に乗り出して、眞に日本主義を鼓吹せんと大決心を爲す以上は、一つの官衙を設け、映畫、ラヂオ、通信、新聞、雜誌等の監督統一を圖り、而して國家の力を以て帝國の姿を紹介知悉せしむることあります。

諸君と共にこれから従事せんとする舉國的新政治體制創設の事は、實は容易



な事業ではありませぬ。既成の各派は解黨して之に参加しても、やはり舊來の因縁の絶ち切れないものが残ります。また地方には舊政黨の根は仲々深く喰ひ入つて居ります。これ等の因縁情實を洗滌し、渾然一體を爲す活動體を作るためには、第一に國民の政治觀を改革しなければなりません。自由主義的社會觀、政權爭奪的政治觀を臚脱し、公を先にし、私を後にし、部分を以て全體に殉せしめ、我が肇國の根本觀念に還元せしめなければなりません。そのために必要な事は國民に對する宣傳と鼓舞とであります。有能なる宣傳大臣を任じ、有力なる組織を以て國民に對し、新政治觀を植ゑつけることに依りてのみこの事が成功するのであります。私は近衛内閣に對し、切にその斷行を切望します。

(七)

日支事變勃發の當初、當局者が頻りに地域を局限して、事變を狭少の範圍に處理解決せんとするや、私は大勢上、其不可能であることを公言し、南京陥落して、武漢三鎮の攻略に移らんとする頃には、私は當局者に對し、蔣介石が奥地退却の作戰を執る以上、斷然空軍を以て、防備ある都市に對しては無差別爆撃を敢行して、之を廢墟となすべしと進言し、且之を公表したのであります。が、當局者は何を掛念したか一向採用せられず、漸く近時に至り重慶爆撃には、私の意見に近き爆撃が行はれつゝあるを承知し、其效果著しきものあるを喜んで居ります。

(八)

私共の熱心唱道したる海南島占領もヤット實行せられ、最早今日となりては



諸般の施設と、私共の希望と、全然一致したることを大いに満足する次第であります。

(九)

今般近衛公が總理大臣に就き、國民に對する御挨拶の放送は、大體異議なき所であります。殊に政黨の弊害を列擧し、痛烈に攻撃せられたるは最も至當とする所であります。又南洋方面にも注意を拂はるゝ御詞がありました。其語簡なるも、意味頗る深長に聞き取り、心強く感じて居る次第であります。

(十)

諸君と我々は同盟創立以來政界の一大革新を呼號し、日常不斷の努力を爲す

と共に、靜かに其時機の到來を待つて居りましたが、茲に圖らずも有史以來未曾有の歐洲の大動亂勃發し、佛蘭西は獨逸に降服し、英國が方さに存亡の瀬戸際に立つの状態を呈するに至り、世界の舊秩序破壊せられ、新秩序を建てねばならぬ時代となりました。斯の大勢は我國にも至大なる影響を及ぼし、革新の氣運愈々熟するに至り、茲に近衛公の出馬せらるゝこととなり、内閣組織及び運行と併行して、新政治體制の計劃を實現することとなりましたのは、邦家の爲め寔に慶賀すべき事であります。是れ我々が八年間提唱し續けて居りましたことが、支那事變と歐洲大動亂に押されて、茲に實現したものであります。是れ全くの天佑なりと申しても差支へなきかと思はれます。就いては國民同盟結成當時の初一念に還り、潔よく之を解散して、虚心坦懷、新體制の下に、應分の責任と義務とを果すことにするが、公明正大なる大丈夫の行動と信じます。



(十一)

私は最後に諸君が多年の間、堅き信念の下に、正を執り、毅然として動かさず、以て國民同盟の信用を保持せられしことを、深く感謝しまして、此の御挨拶を終ります。

## 無差別爆撃を決行すべし

本文は昭和十三年五月、徐州陥落後、即ち武漢三鎮攻撃に着手せられんとする頃、國民同盟代議士會席上に於ける安達氏談話の梗概であります。今や重慶は、我が空軍數十回の爆撃にて殆んど廢墟に歸し、蔣介石をして更に奥地に遁逃するに至らしめんとし、又ヒットラーは、安達氏の意見を、ポーランドの首都陥落にも、今亦たロンドン攻撃にも實行しつゝあります。

(編者識す)



我が皇軍が戦へば必ず勝ち、攻むれば必ず取り、支那軍が連戦連敗することは當然必然の事なるも、彼は奥地退却を唯一の戦法として、我を長期戦に疲れしめんとして居りますから、此の際其の裏らを搔いて、彼を徹底的にイジメ付けるには、斷然空軍の大威力を發揮して、無差別爆撃を執行するより外なしと思ひます。

我が海・陸・空軍の行動振りを靜觀しまして、其沈着勇敢にして、技術の優秀なることは全く世界に誇るに足るものなりと確信して居りますが、其の爆撃の目標は、敵の軍事施設に局限せられて居るもの様に思はれます。是れ畢竟、國際法を尊重し、世界の批難を招かざる様、周到なる用意の結果かと推察せられまするけれども、聊か支那の國民性を理解して蒋介石を壓伏するには、斯かる文明的(?)ナマ優しき行動にては、到底其の目的を達することは得られぬと

考へまするから、先づ國際法規が如何になり居るかを吟味する爲め、斯の道に造詣深き清瀬君に、其の調査を依頼致しましたる所、其の調査の結果は左の通りであります。

(一)一九二二年末に、空戦に関する條約を締結する爲め、日、英、米、佛、伊、獨、蘭の六國が、和蘭の首都ヘーグに會合し、空戦法規の議案に就て種々協議したるが、我國と和蘭が賛同せざりし爲め遂に不成立に終りたる事。

(二)右、英、米、佛、獨、伊等の賛成せる議案の内容を略言すれば、敵の襲來を防止する爲め、武装せる都市に對しては、爆撃を執行するも差支えなき事。

之を要するに、國際條約には、完全なる何等の規定なきのみならず、英、米



佛、獨、伊の各國は、皆武装せる都市の無差別爆撃を容認して居りまするから、今後攻略せんとする漢口でも、武昌でも、亦た廣東でも、防守せられたる、即ち武装せる都市であることは明瞭でありまするから、斷然之を無差別爆撃しても何等の抗議を挿む餘地はないのであります。夫れで蔣介石の居る所は、盡く廢墟となすの意氣と決心とを以て、大爆撃を敢行することが、戦局解決に至大の効果あるものと信じまして、私は數日前、自ら海軍大臣其他にも面談し、又大竹貫一、清瀬一郎兩氏と連名の書面を、去る五月二十六日附にて、當局にも提出したる次第であります。(書面略す)

## 保健國策に就いて

本文は昭和十一年八月二日開催せられたる八聖殿第三十回講演會に於ける講演の速記である。安達謙藏氏は人も知る如く、其の保健衛生に關しては、内相たりし當時、民衆より衛生大臣の稱呼を以て迎へられ、其の抱負經綸の一たりし保健衛生に關する一省の創設は、既に厚生省となりて實現してゐる。本講演は氏が帝都醫學會の權威者交ふる數百名の聴衆に對して爲された獅々吼である。

(編者識す)



## 一、一國の興亡は國民の健康にあり

私は、平生保健衛生の問題に付ては非常に熱心致して居りまして、自分が朝に在るとか野に在るとか、さういふ境遇によつて區別することなくして、私一生涯の事業の一つと考へて、微力を盡す積りで居るのであります。

凡そ地球上に生存して居るものは、互に競争すると云ふことは自然の道理であります。故に生存競争は我々人類より禽獸、蟲魚、草木に至るまで皆同一であります。其の中に於て人類個人々々の競争などは茲に略しまして、國と國との競争、民族と民族との競争に就て考へて見まして、我が日本帝國は、又吾々大和民族は將來どうなるだらうか、またどうすれば宜いかと云ふ問題に到着するのであります。そこで斯ういふ事を自ら問ひ、さう

して自ら答へてみるのである。即ち將來どうなるか、吾々は必ず大飛躍大發展をしなければならぬ。其の大飛躍大發展をするにはどうすれば宜いか。簡単に申したら、男女を問はず非常に活動すると申して宜しうございます。其の活動するにはどうするか。健康が第一である。身體が壯健でなければ、如何にいゝ頭腦を持つて居ても、如何にはたらしきの材幹があつても、結局用をなしません。身體の強健である者が最後の勝利を得る。それで國民全體が強健であれば其の國は必ず榮える。私は、國家の盛衰興亡は國民の健康にあり、と言ひたい位に思ふ。さういふ結論に到達するのが、私の衛生國策論をなす基礎になつて居ります。それで其のお話をする前提として、國民と國民、國家と國家とが競争するといふことを眺めて見る必要があります。



## 二、世界政局に於ける日本の位置

御承知の通り、世界に澤山な民族が居る。其の中で最も大なる民族で、將來あるものは何處かと申しますと、英國のアングロ・サクソン、獨逸のゼルマン民族、それから我が大和民族、其の外に澤山あるけれども、民族中で一番偉いのは此の三大民族ではなからうか。其の中のゼルマン民族は彼の獨逸が餘りに大發展をして、少しく驕りました結果と申しますか、世界戦争を惹起して世界の包圍攻撃を受け、遂に惨めな敗北をして、今日は其の勢力の挽回に慘憺たる苦心をして居る状態であります。何を申しましたが、彼のアングロ・サクソン位偉い民族は他にない。而して之に對抗して競争し得るものは吾々大和民族でなければならぬ。吾々大和民族の最大使命は、地球上に於てアングロ・サクソ

ンと對立競争して、さうして優勝者になるといふことであると思ふ。そこまで行くには今後少からざる年月を要するのであつて、到底七十三歳の我輩の眼の黒い間には、そこまで到達出来ぬと思つて居りますけれども、最終の着眼點はそこに置いて努力せねばならぬと考へて居るのであります。然らば現在の世界政局に於て、日本の位置はどういふ具合であるかといふことを、極く簡単に御參考迄にお話する必要があると思ふ。

御承知の通り、我國が滿洲の獨立を扶翼して、斷然國際聯盟を脱退致しました今日では、露骨に言つたならば、世界的に孤立無援であると申して宜からうと考へるのであります。其の状態を約言致しますと、英國が主となつて世界各國が、日本の貨物入るべからずといふ高き關稅障壁を造つて、日本の有ゆる製品を各國に入れないやうにしてしまつて居ります。印度に於ては申す迄もなく、



或は蘭領に於て加奈陀に於て、濠洲に於て皆然りである。例へば蘭領方面に關して表面和蘭政府と談判交渉をして居りますけれども、和蘭の背後には英吉利が嚴然と控へて居る、でなくんば和蘭が斯くまで強硬なる態度を以て臨み得るものではない。それから支那が近來幾らか元氣づいたやうである。是には色々な事情が複雑して決して單純ではありませぬが、やはり英吉利の尻押しが最大原因である。又ソヴエト・ロシアが國防を非常に充實せしめて居ります。陸上の設備は申す迄もなく、最近は浦鹽に潜航艇三十九隻を建造したといふことが報道せられて居る。恐らく我が海軍當局者も想像しなかつたやうな海軍擴張を圖つて居るやうに存じます。而して其の資金は英吉利が加勢して居るやうな評判もあるが、是は評判のみでなく事實であります。それは佛蘭西の銀行を通してやつて居る。

それから亞米利加はどうかといふと、亞米利加も日本の支那に對する態度に就いては不満であり、又南米中米の市場に日本貨物が續々侵入して、彼の得意先を荒すをば最も不快とする所であります。英吉利は、今日頻りに日本が頭を世界に擡げて來る。此の頭を抑へるにはどうしても英吉利一國だけでは力が足りない。だから亞米利加と固き握手をして、英米で日本を抑へねばならぬといふのが英吉利の政治家の考へである。今の英國首相は、まだ在野の頃から、殊に公然と言つて居る次第である。併し亞米利加は日本を抑へる爲に、英吉利と握手するといふことは比較的冷淡であつた。英吉利でも亦其の反對者、即ち日英親善論者が若干あるといふことは分つて居ります。所が近來は亞米利加にも英米提携論者が出て來たことは事實であつて、新聞にも現はれて居ります。それで我が大和民族は、今の有様であつたならば、近き支那、ソヴエト・ロシア



及び世界の二大強國たる英吉利、亞米利加から包圍されて居るやうな状態であります。是非之を突破しなければならぬ。茲に吾々大和民族として非常な努力を要するのである。それで斯ういふ境遇にある以上は能く此の境遇を認識して、さうして之に善處することを考へねばなりません。それには外交家の働き、國防の充實、色々目前の方法はあります。併しながら結局歸する所は、やはり國民の身體が健康でなければ、斯かる難境を——是は永く續くのであるが——突破することは出来ない。結局國民の健康が最後の勝利を得るといふ結論を私は有つて居る。

### 三、我が國體の基礎たる家族制度

それから、衛生國策の本論に入る前に、もう一つ附加へて置かなければなら

ぬ事がある。それは日本の家族制度のことです。日本の家族制度といふものは確に世界無比のものである、お互に萬世一系の皇室を戴いて、此の世界無比の國體を有つて居るといふことを誇とする。所が其の基礎をなすものは此の家族制度である。若し家族制度が滅びたならば、日本國家の基礎が壊れはぬかといふことを懸念して居る者であります。先年の財界不況の際に失業者が澤山出來た。併しながら歐米に比較すると非常に少い。是は日本の家族制度のある爲めである。都會に居つて失業した人々が皆田舎に歸つて、さうして父兄の膝下にて、もとの農業などに勵むやうな習慣があればこそ、比較的失業者が少かつた。全く是は家族制度のお蔭である。それで日本國民全體が全力を傾けて此の家族制度を維持することに努めねばなりません。

顧みますと、明治年間の吾々の先輩の大政治家は、家族制度を壊し易いやう



なことにして居ることがある。それは日本の有ゆる法律の基礎が個人主義の傾向を多分に有して居ることであります。是は若いお方は御承知ないが、皇政維新の前後に於て外國と日本と條約を結んだ。其の頃は所謂治外法權で、日本に來て居る外國人には日本の法律の力は及ばない。又日本の關稅は一度きちんと決めて、稅率を高めることもどうすることも出来ない。この治外法權、稅權の縛られて居るものを、どうして解き放すかといふことを當時の政治家が非常に苦心をしたものです。其の結果何とでもして西洋人のお氣に入るやうなことをして此の治外法權を廢めさせ、稅權を回復しやうといふことが明治時代の伊藤公、山縣公を初めの大なる事業であつた。それで其の成功は大に多とします。其の成功するまじには、あの山縣公の如き謹嚴なるお方が、鹿鳴館に於て假裝舞會をやつて、維新當時の山縣狂介の陣笠、陣羽織で槍を突いて出るといふやう

なことまでして、さうして、西洋人を喜ばせたりした時代もあつて、有ゆることをした。外國人の氣に入るやうにしなければ、治外法權の撤廢も關稅の改正も出来ない爲に、向ふの法律を直譯して日本に入れたのであります。即ち今日の個人主義の非常に入つて居る民法を初め、日本の風俗習慣のみならず、大事な家族制度などに合はないやうなものが法律になつて居ることは歴然たるものである。

之は先年も幾らか改正されましたけれども、根本から改正するといふことは容易なことではない。併しながら吾々は此の點に注意を拂つて、機會ある毎に何とかして之を改正して行く必要がある。あの有名な穂積八束博士は『民法出來て忠孝滅ぶ』といふ極端な激語を發して居られる位である。是は甚だ遺憾千萬である。其の代り法權も恢復し、關稅も自由に改正し得る様になりたいとい



よことは非常な働きであるが、一方には斯ういふ缺陷が出来て居ると云ふことを承知して居らねばならぬ。そこで私は全力を注いで家族制度を維持することに努めて、而して日本國民を世界第一等の健康國民にするといふことが私の理想の全部であります。

#### 四、行政機構改革の批判

扱て愈々本論に入りますが、それでは保健衛生のことはどうすれば宜いかといふことであります。先づ第一には、保健衛生のことを司る行政上の組織、即ち行政機構を變へねばなりません。先達より今の政府に於ても庶政一新といふ名の下に陸軍大臣が發言し、又内務省などでも保健國策が問題になつて居ることが新聞に現はれて居る。是は多年の私の主張であり、今まで此の事を幾度か

公言したけれども、醫師の方々は無論賛成であるが、其の他の方では非常に同情は少い。『安達さんは一種道樂にあんなことを言ふ』と言ふ位であつた。所が今度は衛生問題は國策としてなすべきものだといふことが新聞に現れまして、私は非常に愉快に感じて居ります。潮内務大臣に先般會ひまして尋ねてみた所が、内務省も同感である、若しさういふ論が出たならば、反對致さない肚を決めて居りますといふことでありました。是は内務省が一番關係がある。何となれば、内務省の社會局、衛生局が先づ一番に内務省から分れて、保健省若くは衛生省といふ省になるのであります。内務省が反對したら行はれない。所が内務省は反對しないと言ふ。それでどうするかといふと、一つの獨立せる行政機關を造りまして、そこから機敏迅速に全國的に衛生行政に關するはたらきが統一されて行はれるやうにする。簡単に申したらそれが行政機構の改革である。



それには内務省の社會局或は衛生局、或は大藏省、文部省、商工省などのさういふ方面に關するものを集めて、是は立派に完備せる一省が出来るといふことを私確信を有つて居る。

併ながら、今日財政困難な状態でありますから、それは積極的に行へば金を掛くべきことであるけれども、此の行政機構だけは現在の衛生局なり社會局なりの各方面で使つて居るだけの金で宜しい。大臣、次官の給料は新しく取らなければならぬけれども、其の外は現在の各方面で使つて居る金を持ち寄つて賄つて行けば宜しい。それでも相當の効果を擧げ得られるものと確信をして居る。若し茲に衛生省なり保健省なりが出来ましたならば、是で日本の衛生行政といふものは、必ず見るべきものがあるといふことを保證しやうと思ふ。所が之を行ふには掛聲ばかりでは駄目です。之は今直ぐ行ふといふことは出来得な

いだらうと思ふ。實は内閣組織の大命を拜したる時に當つて、總理大臣の頭腦に斯ういふ大計が立てられて居つて、大臣を任命する時に、例へば衛生省を造るなら、衛生省に關するやうな省の大臣を作らぬ。さうして二週間か三週間、官制を改革する間は、總理大臣其の他二三の大臣を作つて三省も四省も兼務して居つて、其の間に官制を改革して、樞密院の議を経て實行する様にせなければなりません。一度大臣を任命してから、お前の省の此の局を取上げる、此の課を他に移すぞと言へば、大臣始め省の局長迄百反對しますからどうも出来ない。それで私は現内閣に於て出来やうとも思つて居りませぬ。兎に角衛生省保健省といふ聲が高くなつたといふことだけは、此の問題の一大進歩と思つて喜んで居る程度であります。



## 五、國辱病癩問題の解決

先づ行政機構の改革はこの位にして置いて、第二にはどういふ病氣から手を着けるかといふことをお話して置きます。元來病氣は澤山あるが、其の中で衛生専門家が國民病と申しますのは、如何様な病氣をいふかと申しますと、結核、花柳病、癩病であります。斯ういふものの豫防撲滅を第一に着手したいと思ふのであります。

其の中癩のことは、最早非常に樂觀してお話して置いて宜いと思ひます。實は先年來癩問題の解決には聊か微力を盡して居りますが、畏多くも 皇太后陛下には非常に御軫念遊ばされまして、先年有難き思召のありましたことは、當時の新聞にも現れて居りますから、御承知だらうと思ひますけれども、其の經

過を此の際謹んでお話して置きますが、私の内務大臣時代、即ち昭和五年に静岡縣地方に行幸がありまして、一週間ばかり静岡、濱松、沼津等に御駐輦遊ばして各方面の御視察がありました。其の時私お伴をして居りましたが、濱松市の三方ヶ原飛行場の將校集會所に 陛下が御駐輦遊ばされました時、其の行在所にて、宮内大臣が私にお話したいことがあるといふことでありますから、どういふお話かと思つてお會致しますと、宮内大臣から 皇太后陛下の思召が初めて内務大臣に傳へられたのであります。皇太后陛下は、大正天皇御崩御後、御膳部等の御節約を遊ばされまして、御蓄積遊ばされた其の御内帑金を以て癩救護の經費に當てたいとの思召である。元來慈善事業といふものは 天皇 皇后兩陛下が遊ばすものである。それで 皇太后陛下はそれを御遠慮遊ばして、唯癩のことだけは特に自分が世話してやりたい、と斯ういふ思召があるといふ